

**ミャンマー連邦共和国  
児童中心型教育強化  
プロジェクトフェーズ  
中間レビュー調査報告書**

平成 24 年 10 月  
( 2012 年 )

**独立行政法人国際協力機構  
ミャンマー事務所**

ミヤ事
J R
12-002

**ミャンマー連邦共和国  
児童中心型教育強化  
プロジェクトフェーズ  
中間レビュー調査報告書**

平成 24 年 10 月  
( 2012 年 )

**独立行政法人国際協力機構  
ミャンマー事務所**

## 序 文

日本国政府は、ミャンマー連邦共和国政府の要請に基づき、「児童中心型教育強化プロジェクトフェーズ」を実施することを決定し、2008年9月に討議議事録（R/D）の署名をミャンマー連邦共和国政府と取り交わしました。本プロジェクトは、2004年から2007年まで実施された「児童中心型教育強化プロジェクト」の成果を更に拡大するためのものであり、2008年9月から2012年3月までの3年半のプロジェクトとして、独立行政法人国際協力機構がこのプロジェクトを実施しています。

当機構は、プロジェクト開始から約2年が経過した2011年1月16日から2月4日まで、中間レビュー調査団を現地に派遣し、ミャンマー連邦共和国側カウンターパートと合同でこれまでの活動実績並びにその結果について、評価を行いました。

この評価結果は、ミニッツに取りまとめられ、ミャンマー連邦共和国・日本国双方の合意の下に、署名交換が行われました。本報告書は、今回の評価調査及び協議結果を取りまとめたものであり、今後、本案件を効果的、効率的に実施していくための参考として、広く活用されることを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援を頂いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成24年10月

独立行政法人国際協力機構  
ミャンマー事務所長 田中 雅彦

# 目 次

序 文

目 次

略語表

評価調査結果要約表

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	3
第2章 プロジェクトの概要	5
2 - 1 基本計画	5
2 - 2 プロジェクト・デザイン・マトリックス	5
2 - 3 実施体制	5
第3章 中間レビューの方法	6
3 - 1 評価グリッドの作成	6
3 - 2 評価実施方法	6
第4章 プロジェクトの実績	8
4 - 1 投入実績	8
4 - 2 運営指導調査への対応状況	9
4 - 3 アウトプットの産出状況（達成度）	10
4 - 4 プロジェクト目標の達成見込み	14
4 - 5 実施プロセスにおける特記事項	14
4 - 5 - 1 貢献要因	14
4 - 5 - 2 阻害要因	15
第5章 5項目による評価結果	16
5 - 1 妥当性	16
5 - 1 - 1 ミャンマーの教育政策との整合性	16
5 - 1 - 2 日本の対ミャンマー援助政策との整合性	16
5 - 1 - 3 開発ニーズとの整合性	16
5 - 1 - 4 プロジェクト・アプローチ/デザインの適切性	17
5 - 2 有効性	17
5 - 3 効率性	18
5 - 4 インパクト	19

5 - 5	持続性	19
5 - 5 - 1	政策・制度面での持続性	20
5 - 5 - 2	組織面での持続性	20
5 - 5 - 3	技術面での持続性	20
5 - 5 - 4	財務面での持続性	20
5 - 6	結 論	20
第 6 章	提言及び教訓	22
6 - 1	提 言	22
6 - 1 - 1	CCAによる教師の意識改革とそのインパクト	22
6 - 1 - 2	ミャンマーの伝統的な授業にみる教師の姿勢とCCA普及の可能性	22
6 - 1 - 3	新規教員養成ECとCCA	22
6 - 1 - 4	ミャンマーの特殊事情とJICA協力活動の継続	23
6 - 2	教 訓	24
6 - 2 - 1	ミャンマー側のC/P配置にみるオーナーシップの高さとプロジェクト成果	24
6 - 2 - 2	ミャンマーの実態や研修目的にあった研修形態の選択	24
6 - 2 - 3	教室現場を重視した教師用指導書の開発メカニズム	24
付属資料		
1 .	協議議事録 ( M/M )	27
2 .	評価グリッド結果表	75
3 .	評価グリッド	91
4 .	質問票	97

## 略 語 表

略 語	正 式 名 称	和 訳
AusAID	Australian Agency for International Development	オーストラリア国際開発庁
BERDC	Basic Education Resource Development Center	基礎教育リソース開発センター
CCA	Child Centered Approach	児童中心型教育
C/P	Counterpart	カウンターパート
DBE	Department of Basic Education	基礎教育局
DEPT	Department of Educational Planning and Training	教育計画訓練局
EC	Education College	教員養成大学
EFA	Education for All	万人のための教育
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
MBESS	Myanmar Basic Education Sector Study	基礎教育改善計画調査
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録、ミニッツ
MOE	Ministry of Education	教育省
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクルマネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
R/D	Record of Discussion	討議議事録

## 評価調査結果要約表（中間レビュー）

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：ミャンマー連邦共和国	案件名：ミャンマー連邦共和国児童中心型教育強化プロジェクトフェーズII
分野：教育	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：JICAミャンマー事務所	協力金額（開始から2009年度までの累積）：1億8,200万円 全体協力期間の協力金額（計画）：約3億8,000万円
協力期間	2008年9月～ 2012年3月 (3.5年間)
	相手先機関：教育省（Ministry of Education：MOE）教育計画訓練局（Department of Educational Planning and Training：DEPT）
	国内協力機関： 他の関連協力：
<b>1 - 1 協力の背景と経緯</b>	
<p>JICAは1997年から、ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）の基礎教育の質の向上への支援を継続的に実施している。1997年から1999年にかけて個別専門家「基礎教育カリキュラム改善」を教育省に派遣し、①理科の復活、②地理及び歴史の社会科への統合、③総合学習の新規導入に関する提言を行った。教育省はこれらの提言を受け、2000年に初等教育カリキュラムを改訂している。また、教育省がめざす児童中心型教育（Child Centered Approach：CCA）導入のために、2001年から2004年まで開発調査「基礎教育改善計画調査（Myanmar Basic Education Sector Study：MBESS）」を実施し、①CCAを導入・普及するための教員用指導書の開発（理科、社会科、総合学習）、②教員養成大学（Education College：EC）の強化方策の提案、③小学校整備計画の策定、等の活動を行った。さらに、2004年から2007年にはCCAを実際に学校現場に普及するためのパイロットプロジェクトとして、技術協力プロジェクト「児童中心型教育強化プロジェクト（the Project for Strengthening Child-Centered Approach：SCCA）」を実施し、①カスケード方式による現職教員研修の導入、②学校やクラスターで教員が自主的に学び合う自主研修制度の導入、③ECの学生にCCAの概念を導入するための研修モジュールの開発、④CCAの観点に立った評価方法の開発、等の活動を行った。総じて、SCCAでは、試行的にCCAの現職教員研修を導入するうえで一定の成果を達成したといえる。しかし、比較的短期間においてミャンマー独自の力によるCCAの全国普及を実現するためには、上記のモデルを更に発展・改善し、CCA普及のスピードの向上並びに低い研修コストでの効果・効率的なCCA現職教員研修の実施が求められている。また、カウンターパート機関である教育計画訓練局（Department of Education Planning and Training：DEPT）は、新たな教科の教員用指導書の作成を強く要望しており、特に算数の教師用指導書作成のニーズが高い。</p> <p>以上のような背景から、ミャンマー政府は2007年8月に上記技術協力プロジェクトの後継案件である本案件の実施を要請した。</p>	

## 1 - 2 協力内容

### (1) 上位目標

2015年までにミャンマー全国の90%の小学校にCCAが普及する

### (2) プロジェクト目標

教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する。

### (3) 成果

1. CCA全国普及のための教員養成体制が強化される。
2. CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する。
3. 自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。
4. 算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される。

### (4) 投入（評価時点）

<日本側>

専門家： 計51.07人/月

機材供与：PC、プリンター、プロジェクター等、BERDC整備とCCA普及に必要な資機材

研修： 本邦研修 6名（1コース）

<相手国側>

カウンターパート人員の配置：10名（常勤）

40名（非常勤）

## 2 . 評価調査団の概要

	担当分野	氏 名	職 位
調査者	宮本 秀夫	総括/団長	JICAミャンマー事務所 所長
	西方 憲広	教育開発	JICA国際協力専門員
	角田 和之	教育企画	JICA人間開発部基礎教育第一課 職員
	松岡 源	協力企画	JICAミャンマー事務所 所員
	長谷川 さわ	評価分析	株式会社日本開発サービス
調査期間	2011年1月16日～2月4日		評価種類：中間評価

## 3 . 評価結果の概要

### 3 - 1 実績の確認

(1) 成果1～4の達成状況及び達成見込みは以下のとおりである。

1) 成果1：CCA全国普及のための教員養成体制が強化される。

全国20校のECのうちモニタリングを行った14校のECにおいて、プロジェクトで作成したCCA改訂モジュールを使った授業が実践されており、約90%の学生がCCA理解度テスト



トに合格している。また、EC教官に対するさまざまな能力強化研修が行われ、各EC教官によって授業研究が継続され、授業改善のための取り組みが行われている。現在の状況から、プロジェクト終了までに指標は達成する見込み。

2) 成果2：CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する。

5種類のCCA現職教員研修パッケージが開発され、3年次実施対象のタウンシップでの研修が終われば、CCA全国普及に向けて200名のマスタートレーナー、1,800名のクラスタートレーナーが訓練され、フェーズII対象タウンシップの90%の小学校教員が、CCA現職教員研修を受講することになる。残りの期間でフェーズII対象タウンシップへの研修及びフェーズI対象タウンシップへのフォローアップ研修が終了すれば指標は達成する見込み。

3) 成果3：自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。

タウンシップによってクラスターミーティング・学校ミーティングでの自主研修活動（授業研究、CCA授業の予習・復習、教材の紹介等）の実施度合いに差があり、全体的にクラスターミーティングに比べ、学校ミーティングの実施率が低い。自主研修活動を支援するためのリソース教材は基礎教育リソース開発センター（Basic Education Resource Development Center：BERDC）によって開発され、DEPTによって各タウンシップに配布されている。ATEO（Assistant Township Education Officer）による各学校のモニタリングは、既存のモニタリング・システム〔ATEOが各学校を3カ月ごとに訪問し、基礎教育局（Department of Basic Education：DBE）にモニタリング報告書を提出〕による報告書の提出率が約30%ほどであるため、既存のモニタリング機能を強化するための措置を行うか、モニタリングは各学校・クラスターからの報告をメインとするように変更するか、対策が必要。

4) 成果4：算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される。

小学校の全学年の50%以上のユニットを網羅した算数指導書が作成されており、プロジェクト終了までに作成は完了する見込み。今後、小学校教員に対する算数指導書活用の研修を実施していく予定。現在の状況から、プロジェクト終了までに指標は達成する見込み。

### 3 - 2 評価結果の要約

(1) 妥当性

ミャンマーの教育政策である「Thirty Year Long Term Basic Education Development Plan（2001～）」「Education for All National Action Plan（2003-2015）」、日本の対ミャンマー経済協力方針における位置づけにも変更はなく、それぞれの政策と本プロジェクトの上位目標・プロジェクト目標との整合性は維持されている。

開発ニーズについては、カウンターパート（Counterpart：C/P）やEC教官のCCAに対する

ニーズは高く、現場の教育行政官、小学校校長、教員のニーズは個人によって異なる面があるが、おおむねプロジェクトはターゲット・グループのニーズを満たしている。

プロジェクト・デザインの適切性について、教員養成大学（EC）強化、現職教員研修、自主研修活動の3アプローチ自体は適切であるが、1つのプロジェクトで3つのアプローチを同時に進めることは、カバーする範囲や業務量が多大になるため、プロジェクト・ベースで投入量や活動実施、成果達成を考えた場合、業務が過剰になるといえる。

## (2) 有効性

プロジェクト目標（教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する）の達成見込みについては、現在の指標の達成状況から判断すると、終了までに達成される見込み。ただ、指標が主に成果2の達成にしか連動していない指標であるため、成果3の達成にも連動した指標も加味する必要がある。今後も引き続きプロジェクト目標の進捗と達成について検証していく必要がある。

## (3) 効率性

本プロジェクトに対する日本側・ミャンマー側の投入は、量、質、タイミングともおおむね適切で、すべての投入は十分に活用されている。投入に対するアウトプットの産出状況も問題ないといえる。メインの活動である現職教員に対する研修など、プロジェクトで提供している各種研修では、参加者への日当等が通常よりも低く抑えられているため、低コストで活動が実施されているといえる。また、開発調査時代から長くCCA活動に従事しているカウンターパートが多く、DEPT局長をはじめ、現場で専門家と一緒に業務を行っているBERDCスタッフまでプロジェクトの内容をよく理解しており、円滑な活動実施につながっている。反面、ミャンマー側から許可を得なければならない問題（ビザの取得、地方出張など）もあり、円滑な実施の妨げになることもある。

## (4) インパクト

上位目標（2015年までに国全体の90%の小学校にCCAが普及する）の達成による本プロジェクトのインパクトを測るのは現時点ではまだ早いですが、現在、その達成に向けて正しい軌道にあるといえる。CCA全国普及の政策・計画自体に変更はないため、プロジェクト終了後、教育省が実際に計画どおりに進めていくかのコミットメントしだいとなる。

CCAの全国普及により、小学校教師の指導能力向上による授業の質の向上、そして最終裨益者である児童のパフォーマンスの向上という正のインパクトが期待される。児童のパフォーマンスについては、就学率、学習意欲、成績、理解力などが考えられるが、それらの向上をどう図るかについてはプロジェクト終了までに検討する必要がある。

## (5) 自立発展性

### 1) 政策・制度面

2011/12～2015/16年度の5カ年国家教育計画でCCA全国普及が計画されており、現職教員に対するCCA研修は、プロジェクトで現在実施している方式から少し変更させて、中

央レベル、state/regionレベル、タウンシップレベルの3段階で、1年に90タウンシップずつ実施していく予定。モニタリング・評価によって研修のフォローアップも行っていく見込み。

## 2) 組織面

上記5カ年計画の下で必要な人員等は配置される見込み。現在のカウンターパート機関であるBERDCはプロジェクト終了後、DEPT内の「Teacher Education Section」として新設される予定であり、カウンターパートはプロジェクト終了後も引き続きCCA普及活動に従事する見込み。

## 3) 技術面

カウンターパートであるBERDCスタッフは、CCAに関する技術的な知識・ノウハウ等は既にもっており、プロジェクト終了後の全国普及において、マスタートレーナーも養成されている。ただ、マネジメントに関しては現在、カウンターパートのうちプロジェクト・マネジャー一人に依っている面があり、全国展開の際には他のカウンターパートもマネジメントに積極的にかかわっていけるよう、彼らのマネジメント能力を更に高める必要がある。

## 4) 財政面

現在、教育省は上記5カ年計画の下での2012/13～2014/15年度のCCA普及計画予算案を作成中であり、この予算案では教師用指導書（理科・社会・総合学習の3教科、計7冊）及び研修教材の印刷費用、研修実施費用（参加者への日当・宿泊費も含む）等の費用が計上されている。各種印刷物は現在のものより材料の質を下げコストを抑えることにしている。この予算案が承認されるのは、省庁再編のあとになる。

### 3 - 3 結 論

本プロジェクトの活動は順調に実施されており、教員養成大学（EC）の強化、現職教員に対する研修実施、自主研修活動の促進、算数指導書の開発の各成果に関する活動が実施されている。現時点でインパクトや持続性を判断することは時期尚早であるが、2015年までにCCAを全国に普及させるという目標に向かって、正しい軌道にあるといえる。各成果のなかで達成状況が低いと思われる自主研修活動の促進について、残りの協力期間で強化していき、引き続き本件の活動を進めていくことが求められる。

### 3 - 4 提言及び教訓

#### 3 - 4 - 1 提 言

##### (1) CCA普及計画の策定に係る手順及び今後のスケジュール

CCA普及計画のより円滑な計画策定のために、策定に係る手順及び今後のスケジュールを明確にしておく必要がある。プロジェクトが次回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee: JCC）においてCCA普及計画の草案をDEPT局長に提出し、これを踏まえ、DEPT

が2011年9月に開催予定のJCCにおいて、CCA普及計画の教育政策への統合、及び全国普及に必要な予算措置・要員配置を含む計画策定に係る準備につき、その進捗を共有すること、を提案する。

(2) PDMの改訂

プロジェクトの現状にかんがみ、プロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) の改訂を提案する。

(3) 適切かつ実現可能なモニタリングシステムの構築

自主研修活動を適切に、かつ、継続的に支援していくためのTEO (Township Education Officer) /ATEOによるモニタリングに関し、プロジェクトによる改善に向けた提案・働きかけはなされているものの、現時点で期待されたレベルのモニタリングシステムが構築されているとは言い難い。ミャンマーにおける自主研修活動の定着・普及に向け、教育省は、より適切かつ実現可能なモニタリングシステムについて引き続き検討する必要がある。

(4) 最終裨益者である児童への学力インパクトの確認

「CCAは児童の学力にどのように裨益するのか」について、前述のようなモニタリングやエンドラインサーベイを通して確認する必要がある。その結果を踏まえ、CCAがミャンマーのカリキュラムで求められている学力達成にどのように貢献しているのかについて、改めて関係者で分析・共通理解の形成を図り、CCAの全国普及プロセスにおける啓発活動に役立てることが肝要である。

### 3-4-2 教訓

(1) ミャンマー側のC/P配属にみるオーナーシップの高さとプロジェクト成果

本プロジェクトのそれぞれのコンポーネントに対し、専属C/PとパートタイムC/Pが多く配属されている。また、開発調査時からのC/Pも勤務を続けており、CCAを十分理解した優秀なC/Pが多いといえる。このように、ミャンマー側がCCAの全国普及プロセスを見据えつつ量的にも能力的にも十分なC/Pを配属したことが、本プロジェクトの活動実施及び成果の発現に大きく貢献しているといえる。

(2) ミャンマーの実態や研修目的に合った研修形態の選択

本プロジェクトでは、フェーズ I において2層構造によるカスケード型の研修形態を採用入れたが、結果的にEC教官に大きな負担がかかった。これを踏まえ、フェーズ II ではカスケードを1層増やすことにより、EC教官の負担を軽減する研修形態を導入した。また、現職教員研修のコンポーネントにおいては、カスケード型研修でCCAの基本的な理解を促しつつ、クラスター型研修でCCAの基本的な理解に基づく授業実践力を身につけるようにデザインされている。

このように、ミャンマーの実態や研修目的にふさわしい研修形態を選択したことによ

り、効果的・効率的な研修メカニズムの構築につながったといえる。

(3) 教室現場を重視した教師用指導書の開発メカニズム

算数科教師用指導書の開発については、C/Pによる原案作成、C/Pによる実地検証、日本人専門家とC/Pとの協議など、非常に丁寧なプロセスが導入されている。このプロセスが、ミャンマーの実態に合致した汎用性の高い教師用指導書の開発に貢献しているといえる。

# 第1章 中間レビュー調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）において、初等教育の就学率は2005年時点で男女合わせて100%（男子99%、女子101%）、純就学率は男女合わせて90%（男子89%、女子91%）と万人のための教育（Education for All：EFA）達成に向け、量的な拡大については比較的良好的な成果を達成している。一方、児童の中退率は非常に高く、世帯の貧困問題や親の季節労働と並んで、教育の質の低さや教員の未熟な指導力、とりわけ教師の暗記暗唱型の授業が子どもの学習への興味・関心を阻害していることが原因として挙げられる。教育の質の改善について、近年ミャンマー教育省は従来の暗記暗唱型の教師中心の教育から、児童の主体的な学びを支援する児童中心型教育（Child-Centered Approach：CCA）への転換を目標に掲げている。しかし、CCAの実施に関する具体的な方法論が不足していることから、学校現場に浸透しているとは言い難い状況にあった。

そうした状況の下、JICAは1997年から、ミャンマーの基礎教育の質の向上への支援を継続的に実施している。1997年から1999年にかけて個別専門家、2001年から2004年まで開発調査「基礎教育改善計画調査（Myanmar Basic Education Sector Study：MBESS）」、さらに2004年から2007年にかけて技術協力プロジェクト「児童中心型教育強化プロジェクト」を実施し、CCAの導入・普及を目的に、教員用指導書の開発（理科、社会科、総合学習）、カスケード方式による現職教員研修の導入、教員養成大学（Education College：EC）における研修モジュールの開発等を行った。CCAの導入という観点で、これまでの協力は一定の成果を挙げてきたが、ミャンマー教育省では2015年までにCCAの全国普及を目標としており、目標達成のためには上記のモデルを更に発展・改善していくことが求められている。また、カウンターパート機関である教育計画訓練局（Department of Education Planning and Training：DEPT）は、新たな教科の教員用指導書の作成を強く要望しており、特に算数の教師用指導書作成のニーズが高い。以上のような背景から、ミャンマー政府は2007年8月に上記技術協力プロジェクトの後継案件である本案件の実施を要請し、2008年9月に日本側、ミャンマー側にて討議議事録（Record of Discussion：R/D）が締結され、プロジェクトが開始された。

今般、2010年度がプロジェクト期間の中間年にあたるため、これまでのプロジェクトの投入・活動実績、計画達成度、成果等を確認したうえで、プロジェクトの残りの期間で取り組むべき課題や今後の活動の方向性について協議することを目的に、中間レビュー調査を実施することとした。調査のポイントは以下のとおりである。

当初計画と比較しながら、これまでの投入・活動実績や計画達成度を確認する。

評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価を行う。上記の評価結果に基づき、プロジェクトが現在直面している課題及びプロジェクト終了までの今後の活動計画について、プロジェクト専門家及びミャンマー側関係機関と協議、必要な提言を行う。

これまでの活動実績及び今後の方向性を踏まえ、必要に応じてプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）の見直しを行う。

評価・協議結果を両国の合意事項として協議議事録（Minutes of Meeting：M/M、ミニッツ）に取りまとめる。

1 - 2 調査団の構成

担 当	氏 名	所 属 ・ 役 職
総括/団長	宮本 秀夫	JICAミャンマー事務所 所長
教育開発	西方 憲広	JICA国際協力専門員
教育企画	角田 和之	JICA人間開発部基礎教育第一課 職員
協力企画	松岡 源	JICAミャンマー事務所 所員
評価分析	長谷川 さわ	株式会社日本開発サービス

1 - 3 調査日程

	月日		調査日程
1	1月16日	日	長谷川団員ヤンゴン着
2	1月17日	月	JICAミャンマー事務所打合せ プロジェクト専門家ヒアリング
3	1月18日	火	カウンターパートヒアリング
4	1月19日	水	カウンターパートヒアリング
5	1月20日	木	教育省基礎教育第3局表敬及びフォーカルパーソンへのヒアリング 教育省基礎教育第1局局长表敬
6	1月21日	金	プロジェクトマネジャーヒアリング カウンターパートヒアリング
7	1月22日	土	教育省教育計画訓練局局长表敬 教育省教育計画訓練局局长ヒアリング
8	1月23日	日	資料整理
9	1月24日	月	カウンターパートヒアリング 西方団員、角田団員ヤンゴン着
10	1月25日	火	JICAミャンマー事務所打合せ 学校管理者研修視察 プロジェクト専門家ヒアリング
11	1月26日	水	算数指導書実地検証視察 ティンガンジュン教員大学視察
12	1月27日	木	プロジェクト対象外の学校視察 プロジェクト専門家（算数指導書開発）との打合せ プロジェクトマネジャーヒアリング 国連児童基金（UNICEF）訪問
13	1月28日	金	団内打合せ CCAフォーカススクール視察 プロジェクト専門家との打合せ
14	1月29日	土	資料整理
15	1月30日	日	資料整理
16	1月31日	月	団内打合せ・ミニッツ案作成

17	2月1日	火	ミニッツ案に係るカウンターパートとの協議
18	2月2日	水	プロジェクト専門家との打合せ
19	2月3日	木	教育省教育計画訓練局局長との協議 JICAミャンマー事務所報告
20	2月4日	金	プロジェクト専門家との打合せ 在ミャンマー日本大使館表敬・調査結果報告

#### 1 - 4 主要面談者

##### (1) ミャンマー政府

###### 教育省教育計画訓練局 (DEPT)

U Bo Win 局長  
U Tun Hla 副局長

###### 教育省基礎教育第1局

U kyaw Thu 局長  
Daw Saw Shwe Bu ( part-time : DBE 1 )

###### 教育省基礎教育第3局

U Aung Chein 副局長  
Daw Kyu Kyu Shwe ( part-time : DBE 3 )  
Daw Tin Aye Saw ( part-time : DBE 3 )  
Daw New New Aye ( part-time : DBE 3 )  
Daw Yu Yu Tin ( part-time : DBE 3 )

###### カウンターパート

Daw Cho Cho Oo プロジェクトマネジャー

###### <ワーキンググループ1 ( プレ・サービス ) >

Daw Aye Aye Myint ( full-time )  
Daw Nant Marlar Than ( full-time )  
Daw Lwe Lwe Khaing ( full-time )

###### <ワーキンググループ2 ( イン・サービス ) >

Daw Joanna ( full-time )  
Daw Htay Htay Han ( full-time )  
Daw Myint Myint Than ( full-time )  
Daw Sandar Wai ( full-time : Hlegu EC )

###### <ワーキンググループ3 ( 算数指導書開発 ) >

Daw Kyi Kyi Swe ( full-time )



(2) プロジェクト専門家

伊藤 拓次郎

山岡 知互

今堀 勇

相馬 敬

伊藤 隆

総括/CCA普及計画

CCA研修/モニタリング

算数指導書開発

CCA研修/モニタリング

算数指導書開発

(3) 在ミャンマー日本大使館

鈴鹿 光次

多田 清富

参事官

第二書記官

(4) JICAミャンマー事務所

齋藤 克義

Daw Mi Mi Cho

次長

Program Assistant

## 第2章 プロジェクトの概要

### 2 - 1 基本計画

名 称	児童中心型教育強化プロジェクトフェーズⅡ
協力期間	2008年9月18日～2012年3月17日
対象地域	フェーズⅠ対象27タウンシップ及びフェーズⅡ対象40タウンシップ
上位目標	2015年までにミャンマー全国の小学校教員にCCAが普及する。
プロジェクト目標	教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する。
期待される成果	成果1：CCA全国普及のための教員養成体制が強化される。 成果2：CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する。 成果3：自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。 成果4：算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される。

### 2 - 2 プロジェクト・デザイン・マトリックス

プロジェクトでは、他の技術協力プロジェクトと同様、プロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management：PCM）手法にのっとり、目標、活動、投入等のプロジェクトの主要構成要素や、プロジェクトをとりまく外部条件との論理的相関関係を示したプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）を作成し、2008年9月の討議議事録（Record of Discussion：R/D）締結時において、協議議事録（M/M）の付属文書として承認している。

プロジェクト開始後、2010年10月に行われた第4回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）において、PDMの修正が提案され、PDM第2版として合意されている。今回の中間レビューにおいては、PDM第2版に基づき調査を実施することとする。

### 2 - 3 実施体制

プロジェクトのカウンターパート機関はDEPTであり、同局局長がプロジェクト・ダイレクターとなっている。同局長を議長とする本プロジェクトの最高意思決定機関である合同調整委員会が年2回開催され、プロジェクトの進捗状況の管理、活動計画策定及び各種意思決定が行われている。

そのほか、プレ・サービス、イン・サービス、算数指導書開発の3つのワーキング・グループを組織し、それぞれにカウンターパートの配置がされているのと同時に、対象タウンシップにおけるモニタリングを担う基礎教育局（第1～第3）からそれぞれ1名ずつフォーカル・パーソンが配置されて、専門家とともにプロジェクトの各活動を実施している。

## 第3章 中間レビューの方法

### 3 - 1 評価グリッドの作成

本中間レビューは「JICA事業評価ガイドライン（改訂版）」に準拠して実施した。PDMやその他関係資料に基づいて評価設問（調査すべき項目）を検討し、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）に関する評価グリッドを作成した。実績、実施プロセス、評価5項目の定義は以下のとおりである。

作成された評価グリッドは付属資料3. に示す。

#### (1) 実績

投入、成果、プロジェクト目標、上位目標に関する達成度、もしくは達成予測に関する情報

#### (2) 実施プロセス

活動の実施状況やプロジェクトの現場で起きている事柄に関する情報。

#### (3) 評価5項目

妥当性	プロジェクトがめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適当か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当かなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的効果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響も含む。
自立発展性	援助が終了しても、プロジェクトで発言した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みがあるか）を問う視点。

### 3 - 2 評価実施方法

評価グリッドに基づいて以下の方法で情報・データを収集し、評価分析を行った。

#### (1) 文献・既存資料調査

レビューした主な資料は以下のとおり。

- ・ 30カ年長期教育開発計画（Thirty-Year Long Term Education Development Plan）（2001～2030年度対象）
- ・ EFA国家行動計画（EFA National Action Plan）（2003～2015年度対象）
- ・ ミャンマー連邦共和国児童中心型教育強化プロジェクト実施協議報告書（付事前評価調査報告書）（2008年10月）
- ・ プロジェクト進捗報告書、業務完了報告書

- ・ その他プロジェクト成果物（教師用指導書、マネジメントキット等）

(2) 直接観察

プロジェクト事務所、教員大学、小学校（プロジェクト対象、非対象の学校双方）を視察し、活動状況を確認した。

(3) インタビュー調査

専門家、教育省教育計画訓練局（DEPT）、基礎教育第1局（DBE1）、基礎教育第3局（DBE3）、教員養成大学（EC）校長、教官を対象にインタビューを実施した。

## 第4章 プロジェクトの実績

### 4 - 1 投入実績

本プロジェクトへの投入は、日本側・ミャンマー側双方から計画どおりに行われている。PDMと実際の投入実績を以下の表4-1、4-2に示す。

表4 - 1 日本側の投入実績

計 画	実 績
専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総括/CCA普及計画</li> <li>・ CCA研修/モニタリング</li> <li>・ EC能力強化</li> <li>・ 算数指導書開発</li> <li>・ ECモニタリング</li> <li>・ 短期専門家（必要に応じて）</li> </ul>	専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総括/CCA普及計画</li> <li>・ CCA研修/モニタリング</li> <li>・ EC能力強化</li> <li>・ 算数指導書開発</li> <li>・ ECモニタリング/業務調整</li> <li>・ 短期専門家（CCA研修/モニタリング1名、算数指導書開発1名）</li> <li>・ 講師派遣（教育工学1名、教育原理1名、研修プログラム開発1名）</li> </ul> 合計派遣期間（2011年1月時点）：52.20M/M
研修員受入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数指導法強化</li> </ul>	研修員受入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数指導法強化：6名（2010年2月7～26日）</li> </ul>
ローカルコスト負担 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェーズ I・IIのパイロット地域への教員用指導書の印刷・配付</li> <li>・ BERDCスタッフの出張の際の交通・宿泊費</li> <li>・ 研修教材の印刷・配付</li> <li>・ 研修の際の昼食費</li> </ul>	ローカルコスト負担 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員用指導書（総合学習、理科、社会、算数）の印刷・配付</li> <li>・ イラストレーション教材の印刷・配付</li> <li>・ 各種研修教材（トレーニング・キット、マネジメント・キット、ハンドアウト）の印刷・配付</li> <li>・ CCAリソース・ブックの印刷・配付</li> </ul> 合計（2011年1月時点）：17万6,860ドル
機材供与	機材供与 <p>PC、プリンター、プロジェクター等、BERDC整備とCCA普及に必要な資機材</p> 合計（2011年1月時点）：18万7,221ドル

表 4 - 2 ミャンマー側の投入実績

計 画	実 績
カウンターパート配置 ・プロジェクト・マネジャー：1名（常勤） ・EC能力強化/CCA研修制度開発：14名（常勤7名、非常勤7名） ・算数指導書開発：5名（常勤3名、非常勤2名） ・EC担当者：ECから各1名、計20名（非常勤） ・DBE担当者：DBE1・3から各1名、計2名（非常勤）	カウンターパート配置 <sup>1</sup> ・プロジェクト・マネジャー：1名（常勤） ・EC能力強化：6名（常勤3名、非常勤3名） ・CCA研修制度開発：4名（常勤4名） ・算数指導書開発：11名（常勤3名、非常勤8名） ・EC担当者：ECから各1名、計20名（非常勤） ・DBE担当者：DBE1から2名、DBE2から1名、DBE3から3名、計6名（非常勤）
土地・施設提供及びその他 ・プロジェクト事務所 ・プロジェクト事務所での経費（光熱・通信）	土地・施設提供及びその他 ・BERDC内のプロジェクト事務所 ・プロジェクト事務所での経費（光熱・通信） 合計（2010年12月時点）：704万7,065チャット （約8,842ドル） <sup>2</sup>
ローカルコスト負担 ・改訂ECモジュールの印刷・配付費用 ・EC教官が中央研修に参加する際の日当・交通費 ・各種研修参加における日当・交通費 ・クラスターミーティング・学校ミーティングをモニタリングする際の日当・交通費	ローカルコスト負担 ・各種研修における日当・交通費 合計（2010年12月時点）：415万4,340チャット （約5,212ドル）

#### 4 - 2 運営指導調査への対応状況

本プロジェクトの運営指導調査（2009年9月実施）においていくつかの提言がなされ、活動の追加など修正が行われた。運営指導調査によって追加・修正がなされた活動について、以下の表4-3に示す。

表 4 - 3 運営指導調査で出された提言とその対応

提 言	対 応
CCA コンピテンシーレベルの具体的設定	教員のCCAコンピテンシーとして、以下の6つのコンピテンシーが設定された。  1. 【教科知識】 教科のコンセプトをよく理解している。 2. 【教材スキル】 教材を活用したり、自作したりできる。 3. 【指導スキル】 多様な教授学習活動を用いて児童の学びを促進できる。

<sup>1</sup> カウンターパートのリストについては付属資料1. 英文報告書のANNEX 4を参照。

<sup>2</sup> 1ドル=797チャット換算（2011年2月時点）。

提 言	対 応
	<p>4.【授業設計】効果的な授業設計ができる。</p> <p>5.【学習評価】児童の学びの度合いを把握することができる。</p> <p>6.【態度】児童の興味・関心を引き上げることができる。</p> <p>また、教員のCCA実践レベルとして、以下の3つのレベルが設定された。</p> <p>レベル1：指導書を活用して基礎的なCCA授業ができるようになる。</p> <p>レベル2：指導書で示す内容を理解し応用も含んだCCA授業ができるようになる。</p> <p>レベル3：CCA的な授業設計と効果的な授業実践ができるようになる。</p> <p>教員が段階的に上記のレベルを向上させていくことを最終目標とし、本プロジェクトではレベル1を標準的な達成目標として、対象地域へのCCA普及をめざすことで合意された。</p>
モデル校・教師の育成	<p>ヤンキンEC付属小学校・ティンガンジュンEC付属小学校の2校をモデル校（CCA focused schools）として選定し、上記のレベル2～3をめざした取り組みを実施している。本件に係る活動として、短期専門家のM/Mが1.6M/M追加された。取り組み内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員レベルでのモデルづくりを行う。3教科（理科・社会科・総合学習）で各2名、計6名を対象とする。</li> <li>・対象教員に対し、授業研究（lesson study）を行いながら上記の6つのコンピテンシーを指導していく。</li> <li>・育成された教員は中央レベルでの研修においてデモストレーターとして活用する。また、CCAモデル授業ビデオの制作に協力してもらう。</li> </ul>
現場での質改善を行う体制づくり	<p>学校・クラスターミーティングを支援するリソース・ブックを継続的に発行し、そのための体制構築として、既存の教育雑誌「ピニヤタザウン」を通じた発行を検討。同雑誌関係者に対して将来的な協力についての打診を行った。</p>
EC教科書の追加モジュールの改訂	<p>ワーキング・グループ1〔教員養成大学（EC）強化〕がEC教科書の追加モジュールの改訂作業を行っている。</p>
DBEの関与強化	<p>2010年2月にDBE2（北部地域管轄）の実務者を対象にしたオリエンテーションを実施。また、マスタートレーナー研修（Master Trainers Training：MTT）をマンダレーにて開催し、DBE2関係者の関与を高めた。</p>

#### 4 - 3 アウトプットの産出状況（達成度）

PDMで特定された各アウトプットに係る活動は、おおむね計画どおりに行われている。活動を実施した結果、現時点でプロジェクトの各アウトプットがどの程度達成されているかについては、主に各アウトプットに設定された指標の達成状況を確認し、また、本中間レビュー調査で関係者にヒアリングを行った結果も加味して判断する。

各アウトプットにおける指標とその結果を、以下に示す。

アウトプット1：CCA全国普及のための教員養成体制が強化される。

指 標	結 果
1. 全国20校のECにおいて担当教官が改訂済EC教科書を使った授業を実践している。	現在までにモニタリングを行った14校のECでは、93%のEC教官が改訂済EC教科書を使用して授業を行っている。
2. EC教官によって授業改善のための取り組みが行われている。	全20校のEC教官に対して、LCA（Learner Centered Approach）強化、教授法、教育実習などの能力強化に関する研修が16講座行われ、各ECで授業改善を目的とした授業研究（lesson study）が行われている <sup>3</sup> 。
3. 20校のEC卒業生の50%がCCAの基礎を理解している。	現在までにモニタリングを行った14校のECでは、約90%のEC学生がCCAに関する基礎レベルの理解を得た（CCAのモジュールが入った単位の理解度テストに合格した）。

上記の指標結果から判断すると、現時点における各指標の達成レベルは順調であり、関係者へのヒアリング結果からも、アウトプット1はプロジェクト終了までに達成されることが見込まれる。

アウトプット2：CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する<sup>4</sup>。

指 標	結 果
1. フェーズ I 対象タウンシップの90%のクラスターにおいて、小学校教員に対するフォローアップ研修が実施されている。	フェーズ I 対象タウンシップでのフォローアップ研修は4年次に実施予定。
2. フェーズ II 対象タウンシップの90%の小学校教員が、CCA現職教員研修を受講している。	現在までに研修を実施した23タウンシップにおいて、100%以上（1万6,816名/1万6,123名中） <sup>5</sup> の対象教員が小学校教員研修（PTT）を受講した。4年次実施対象の17タウンシップでの研修が終われば指標は達成される見込み。
3. CCA全国普及に向けて200名のマスタートレーナーが育成される。	現在までに160名のEC教官・ATEOがマスタートレーナー研修（MTT）を受講した。4年次実施対象のMTTが終われば指標は達成される見込み。
4. フェーズ II 対象タウンシップにおけるCCA普及のために1,800名のクラスタートレーナーが訓練される。	現在までに1,396名のクラスターヘッド・小学校校長等がクラスタートレーナー研修（Cluster Trainers Training : CTT）を受講した。4年次実施対象のタウンシップでの研修が終われば指標は達成される見込み。

<sup>3</sup> 研修のリストについては付属資料1. 英文報告書のANNEX 5を参照。

<sup>4</sup> 研修の受講者数などを示した詳細なリストは付属資料1. 英文報告書のANNEX 5を参照。

<sup>5</sup> 対象小学校の教員のほか、学校管理者、対象タウンシップの僧院学校の教員、コミュニティにおける非常勤教員なども研修を受講したため、受講者が100%以上になった。



5. 質の高いCCA現職教員研修パッケージが開発されている。	MTTキット、CTTキット、PTTキット、スーパーバイザー研修（Supervisors Training：SVT）キットの4種類のCCA研修キットが開発され、各年ごとに改訂されている。
6. CCA現職教員研修の計画が策定される。	各年次に実施するCCA現職教員研修の計画は毎年策定されている。

上記の指標結果から判断すると、現時点における各指標の達成レベルは順調で、4年次実施対象タウンシップでの研修を終了すればそれぞれ達成される見込みであり、アウトプット2はプロジェクト終了までに達成されることが見込まれる。

関係者へのヒアリングによると、養成されたマスタートレーナーの質にバラつきがあるなど、まだ研修体制が「確立」されるまでには至っていないため、プロジェクトの残り期間で確立していくための課題を整理し、修正・改善すべき点があればその部分を強化していくことになっている。

アウトプット3：自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）<sup>6</sup>を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。

指 標	結 果
1. フェーズ I 対象タウンシップの80%において自主研修活動が導入されている。	フェーズ I 対象タウンシップでの自主研修活動の導入は、4年次のフォローアップ研修時に実施予定。
2. フェーズ II 対象タウンシップの80%において自主研修活動が導入され、定期的を実施されている。	現在までにモニタリングを行った13タウンシップのうち、11タウンシップがクラスターミーティングでCCAの自主研修活動を実施しており、10タウンシップが学校ミーティングでCCAの自主研修活動を実施していた。タウンシップによって自主研修活動の実施度合いに差がある。
3. フェーズ I・II 対象タウンシップの70%において、ATEOがプロジェクトで開発された授業実践評価ツールを用いて授業評価をできる。	本指標は2010年10月のPDM改訂で追加された指標のため、データは未集計。
4. 70%のタウンシップが定期的に自主研修活動の報告書を提出している。	本指標もPDM改訂で追加された指標のため、データは未集計。既存のモニタリング・システム（ATEOが管轄地域の学校を3カ月ごとに訪問し、DBEにモニタリング報告書を提出する）による各タウンシップからの報告書の提出率は約30%程度。

<sup>6</sup> クラスター・学校ミーティングで行われている自主研修活動の内容は、授業研究、授業の予習・復習、教材の紹介、その他情報交換など。

5. プロジェクト対象タウンシップの教育行政官がDBE及びBERDCによって自主研修活動の実施方法についての訓練を受けている。	現在までに182名のDBE担当者、TEO、州/管区レベルの Assistant Supervisor、Assistant Inspection SupervisorがSVTを受講した。4年次実施対象のタウンシップでの研修が終われば指標は達成される見込み。
6. 自主研修活動を支援するために定期的に毎年1回以上リソース教材がBERDCによって開発され、DEPTによって配布されている。	各種リソース教材(CCAマネジメント・キット、CCA研修前後の授業分析DVD、CCAリソース・ブック等)がBERDCで作成され、パイロット対象地域の学校に配付されている。

上記の指標結果から判断すると、現時点における指標5・6の達成レベルは順調であるが、対象の活動が4年次に実施される指標1を除いて、アウトプット3における指標の達成レベルは、他のアウトプットに比べると全体的にやや弱い。指標3・4のデータは未集計であるが、関係者へのヒアリング等から判断すると、現時点での達成度は限定的であることが予想される。

自主研修活動の促進については、もともとミャンマーで実施されていた既存のモニタリング・システムを使うことによって、主にATEOが各クラスター・学校での自主研修活動の実践の様子をモニタリングし、指導も行う予定であったが、活動を実施していくなかで、この既存のシステムがあまり徹底されていないことが分かった。そのため、各クラスター・学校がそれぞれの自主研修活動の内容を直接DBE、BERDCに報告するという形にモニタリング方法を変更した。現在、このモニタリング方法をどう強化していくかの検討を行っており、残りの期間で改善していく予定である。

アウトプット4：算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される。

指 標	結 果
1. 開発された算数指導書の質が適切である。	「指導書の質」について、ミャンマー側からは算数アドバイザー、日本側からは算数指導書開発の専門家（長期・短期各1名）が内容のチェックを行っている。また、指導書中のすべての授業案（lesson plan）について、ヤンゴン市内の小学校で実地検証が1案につき2回行われている。
2. フェーズⅡ対象タウンシップの70%において小学校教員に対する算数指導書活用の研修が実施されている。	算数指導書の内容が盛り込まれた研修は4年次に実施予定。
3. 算数指導書は小学校の全学年の50%以上のユニットを網羅している。	小学校全学年の算数全54ユニットのうち、30ユニットが指導書でカバーされている。

上記の指標結果から判断すると、現時点における各指標の達成レベルは順調で、指標は4年次実施対象タウンシップでの研修が実施されれば達成される見込みであり、アウトプット4はプロジェクト終了までに達成されることが見込まれる。

#### 4 - 4 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標の達成見込みも、アウトプットの達成状況と同様、主に目標に設定された指標の達成状況を確認し、また、本評価調査で関係者にヒアリングを行った結果も加味して判断する。

プロジェクト目標における指標とその結果を、以下に示す。

プロジェクト目標：教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する。

指 標	結 果
1. フェーズ I 対象タウンシップにおいて、CCAの観点から70%の小学校教員の授業実践技術が向上する。	フェーズ I 対象タウンシップでのフォローアップ研修は4年次に実施されるため、まだデータは集計されていない。
2. フェーズ II 対象タウンシップにおいて、70%の小学校教員がCCAに関する基本的な知識と技術を身につける。	PTTが既に実施されたタウンシップにおいて、受講した小学校教員の97%がCCA理解度テストに合格した <sup>7</sup> 。
3. CCA普及計画が関係者間で合意される。	2011年12月までにCCA全国普及計画を作成予定。

プロジェクト目標の達成見込みについては、上記の指標結果から判断すると、現時点における各指標の達成レベルはおおむね順調であり、関係者へのヒアリング結果からも、各指標は2012年3月のプロジェクト終了までに達成されることが見込まれる。

ただし、上記指標のみでプロジェクト目標の達成度を判断するのは適切でなく、上記指標は主にアウトプット2・3の達成にしか連動していない指標であるため、アウトプット1のEC強化にも連動した指標を追加して判断する必要がある（アウトプット4の算数指導書開発については、内容の性質上、プロジェクト目標の達成に直接関係するアウトプットではないため、追加しなくても差し支えないといえる）。本中間レビュー調査において、プロジェクト目標の指標変更も含んだPDMの改訂案（Ver. 3）を提示しており、本プロジェクト終了時点での目標達成のいかんについては、改訂後の新指標によって判断することが望まれる。

#### 4 - 5 実施プロセスにおける特記事項

##### 4 - 5 - 1 貢献要因

本プロジェクトの実施において、以下の貢献要因があった。

- ① ミヤンマー側カウンターパートによるプロジェクトへの参加度が非常に高く、フルタイムで活動するカウンターパートがかなり多い。当初の計画で予定されていたカウンターパートの人数からは欠員が生じているものの、パートタイムのカウンターパートやその他のプロジェクトへの協力者も含めると、他のプロジェクトに比べてその数は非常に多いといえる。加えて、個々のカウンターパートが業務に真面目に熱心に取り組んでおり、

<sup>7</sup> 研修を受講した教員のCCA実践に関するモニタリングの結果、2年次に研修を実施した3タウンシップでは、80%近くの教員がレベル1（指導書を活用して基礎的なCCA授業ができるようになる）に達しているが、3年次に研修を実施した20タウンシップでは、レベル1に達している教員は約65%である。

円滑な業務の実施に貢献している。他の案件ではカウンターパートの関与度合いが低く、活動の実施に支障を来すケースもしばしばみられることから、本プロジェクトにおけるカウンターパートの参加度の高さは、業務の実施に極めてプラスに働いているといえる。

- ② 実施機関であるDEPTからの協力状況も良い。本プロジェクトではJCCが年2回実施されており（他のミャンマーにおける案件では年1回が多い）、プロジェクトの進捗状況がミャンマー側に定期的に伝えられている。DEPT局長は本プロジェクトの前段の開発調査時代から局長を務めており、プロジェクトへの理解が深く、協力的な対応が得られている。
- ③ 日本人専門家とカウンターパート間のコミュニケーションが良好であり、プロジェクトの円滑な実施に好影響を及ぼしている。前段の開発調査から本件の業務に携わっているカウンターパートが複数おり、プロジェクトの内容や日本のやり方をよく理解していることに加え、長年にわたって協力を続けていることによって両者の信頼関係が培われ、「業務しやすい」環境ができている。
- ④ 本プロジェクトでは研修の実施方法としてカスケード方式が採られたが、このトップダウン的な方式はミャンマーの文化的背景にマッチし、効率的な研修の実施システムとして定着させることができた。自主研修活動の定着はなかなかうまくいかないことから、クラスター研修のみで進めていく方法では定着は難しかったと考えられる<sup>8</sup>。

#### 4-5-2 阻害要因

一方、本プロジェクトの実施中、以下の阻害要因があった。

- ① ミャンマー政府から許可を得なければならない問題があり（ビザの滞在期間の許可や地方への出張許可など）、手続きが進まず計画変更を余儀なくされたケースがいくつか生じた。
- ② プロジェクト実施期間中、ミャンマー政府により、本プロジェクトとは別の「算数・英語強化研修」が全国規模で実施され、本件のカウンターパートがその研修の準備・実施作業に駆り出され、その間、プロジェクト活動に従事できない状況が生じた。

---

<sup>8</sup> そのほか、ヒアリングによると、ミャンマーではドナーからの支援が限られており、「援助慣れ」のような状況がなく、外国援助による研修の提供などが貴重に思われているため、関係者が活動に真面目に取り組む、という報告もあった。

## 第5章 5項目による評価結果

### 5 - 1 妥当性

#### 5 - 1 - 1 ミャンマーの教育政策との整合性

ミャンマーの教育政策の中心である「30カ年長期教育開発計画（Thirty-Year Long Term Education Development Plan）」（2001～2030年度対象）において、基礎教育分野の10プログラムの1つに「基礎教育の質の向上」があり、そのための施策として「教師教育の改善」が挙げられている。

また、上記30カ年長期計画の下、万人のための教育（Education for All：EFA）、ミレニアム開発目標の達成をめざした行動計画として策定された「EFA国家行動計画（EFA National Action Plan）」（2003～2015年度対象）において、EFA達成のための6つの戦略の1つに「子どもに優しい学校の創造と拡充」があり、そのための具体的な活動として「CCAの実践」が明記されている。

本プロジェクトの事前調査以来、CCAの普及というミャンマー政府の方針に変更はなく、本プロジェクトの上位目標・プロジェクト目標とミャンマーの教育政策との整合性は依然、維持されている。

#### 5 - 1 - 2 日本の対ミャンマー援助政策との整合性

日本のミャンマーに対するODAの意義として、「ミャンマーは中華人民共和国（以下、「中国」と記す）、インドという大国の間に位置する地政学的に重要な国であるとともに、日本にとって重要なパートナーであるASEANの一員でもある。また、歴史的にも日本との友好関係が培われてきた国であり、ミャンマーが民主的で市場経済に立脚した社会的に安定した国となることが重要である」という考えの下、「ASEANの繁栄・安定・統合に貢献する国として確立していくこと」「着実に民主化を進めていくこと」の観点から支援を行っている。

また、ミャンマーに対するODAの基本方針として、同国の政治状況・債務状況等を踏まえ、1987年以降は有償資金協力の新規供与は行っておらず、新規の経済協力案件についても基本的に見合わせる措置をとっているものの、緊急性が高く、真に人道的な案件、民主化・経済構造改革に資する人材育成のための案件、CLMV諸国〔カンボジア王国、ラオス人民民主共和国（以下、「カンボジア」「ラオス」と記す）、ミャンマー、ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）]もしくはASEAN全体を対象とした案件については、ミャンマーの政治情勢を注意深く見守りつつ、案件内容を慎重に吟味したうえで実施することにしている。本プロジェクトは上記「民主化・経済構造改革に資する人材育成」にのっとった案件として実施されている。

よって、本プロジェクトの上位目標・プロジェクト目標と日本の対ミャンマー援助政策との整合性も認められる。

#### 5 - 1 - 3 開発ニーズとの整合性

本プロジェクトのターゲット・グループ（BERDCスタッフ、EC教官、対象地域のTEO/ATEO、クラスターヘッド、小学校校長、小学校教員）の開発ニーズについて、プロジェクトはおおむねターゲット・グループのニーズを満たしている。BERDCはCCAの普及を担う組織であり、スタッフは普及におけるさまざまな技術的支援を本プロジェクトにより得ているため、彼らの二

ニーズを十分に満たしている。EC教官の多くはCCAを好意的に捉えており、彼らのニーズも満たしているといえる。TEO/ATEO、クラスターヘッド、小学校校長にとって、CCAに対するニーズは個人によって異なる。CCA導入に意欲的な個人もいるが、CCAの実践が彼らの業務軽減や昇進などの評価に直接は結びつかないため、全体的なニーズはやや弱いといえる。小学校教員のニーズも個人によって異なり、CCAを習得したいという意欲の高い教員のニーズは満たしているが、特に習得意欲をもたない教員のニーズは弱いといえる。

#### 5 - 1 - 4 プロジェクト・アプローチ/デザインの適切性

本プロジェクトでは、教員養成大学強化（pre-service）、現職教員研修（in-service）、自主研修活動促進（on-site）の3つのアプローチを組み合わせることによって、CCA普及の仕組み・土台をつくることを目的としている。この3アプローチはいずれも普及に必要な手段であり適切なアプローチであるが、1つのプロジェクトで3つのアプローチを同時に進めるとなると、カバーする範囲や業務量が多大になる。JICAの他の教育案件をみても、2つのアプローチを組み合わせている例はあるが、3つのアプローチを同時に進めている案件はほかに例がない。

本プロジェクトではこの3つのアプローチに加え、算数の指導書開発という活動も入っており、本件自体がひとつのプログラムのようにになっている。このため、プロジェクト・ベースで投入量や活動実施、成果達成を考えた場合、通常のプロジェクトよりは目標が壮大になっているといえる。特に、CCAの実践レベルの質を高めつつ計画どおりに業務を進めることは難しく、CCAの実践レベルを定めた3段階のレベル<sup>9</sup>のうち、レベル1（指導書を活用して基礎的なCCA授業ができるようになる）をめざすことで精一杯だといえる。

よって、プロジェクトのデザイン自体が不適切というわけではないが、ひとつのプロジェクトとしては活動が広範囲にわたるため、プロジェクトの全体像が分かりにくくなっている点は否めない。

以上の結果を総合的に判断すると、本プロジェクトの妥当性は高いといえる。

#### 5 - 2 有効性

「第4章 プロジェクトの実績」で述べたように、本プロジェクトではおおむね計画どおりに活動が実施され、現時点で既に一定の成果は現れている。各アウトプットの達成状況をまとめると、以下のとおり。

アウトプット1（CCA全国普及のための教員養成体制が強化される）では、全国20校のECのうちモニタリングを行った14校のECにおいて、フェーズ で改訂されたCCAモジュールを含んだEC教科書を使った授業が実践されており、約90%の学生がCCAの基礎レベルの理解を得ている。また、EC教官に対するさまざまな能力強化研修が行われ、各EC教官によって授業研究及び授業改善のための取り組みが行われている。現在の状況から、プロジェクト終了までにアウトプット1は達成される見込みである。

アウトプット2（CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する）では、4種類のCCA研修パッケージが開発され、4年次実施対象タウンシップでの研修が終了すれば、200名以上のマスタートレーナー、1,800名以上のクラスタートレーナーが養成され、フェーズ 対象タウンシップの

<sup>9</sup> 「4-2 運営指導調査への対応状況」における設定レベルを参照。

90%以上の小学校教員がCCA研修を受講することになる。残りの期間でフェーズ 対象17タウンシップへの研修及びフェーズ 対象タウンシップへのフォローアップ研修を実施すれば、アウトプット2は達成される見込みである。プロジェクト終了までにこの研修体制を更に強固なものにするために、現在の課題を再整理し、修正すべき点があれば改善を図っていくことが望まれる。

アウトプット3 [ 自主研修活動 ( クラスターミーティング、学校ミーティング ) を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する ] では、自主研修活動のモニタリング・指導を担う教員行政官 ( DBE担当者、州/管区レベルのAssistant Supervisor、Assistant Inspection Supervisor、TEO/ATEO ) がスーパーバイザー訓練用の研修を受講している。また、自主研修活動を側面支援するための各種リソース教材がBERDCで作成され、パイロット対象地域の学校に配付されている。だが、アウトプット3は他のアウトプットに比べて達成状況がやや弱く、各タウンシップによって自主研修活動の実施度合いに差がある。また、既存のモニタリング・システムを利用した自主研修活動の促進が困難であることから、モニタリング方法を変更し改善を図っている。後述する「第6章 提言及び教訓」において、モニタリング機能強化の点について述べる。

アウトプット4 ( 算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される ) では、小学校の全学年の50%以上のユニットを網羅した算数指導書が作成されており、プロジェクト終了までに指導書作成は完了する予定である。4年次実施の研修から算数指導書の活用も盛り込んだ研修を実施していくことになっており、現在の状況から、プロジェクト終了までにアウトプット4は達成される見込みである。アウトプット4の指標にある「算数指導書の質の確保」に関し、後述の提言において、プロジェクト終了までに配慮しておきたい点を述べる。

プロジェクト目標 ( 教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する ) の達成見込みについては、現在の指標の達成状況から判断すると、すべてのアウトプットが予定どおりに達成されたあと、2012年3月のプロジェクト終了までに達成されることが見込まれる。今後も引き続きプロジェクト目標の達成に向けて、残りの活動の実施・修正点の改善を図っていくことが望まれる。

### 5 - 3 効率性

「4-1 投入実績」で述べたように、本プロジェクトでは日本側・ミャンマー側双方からほぼ計画どおりに投入がなされた。日本人専門家・ミャンマー側カウンターパートへのヒアリング結果を総合すると、投入の量、質、タイミングともおおむね適切であり、投入された各要素は活動の実施にもれなく活用され、各活動はおおむね計画どおりに実施されているといえる。上記「5-2 有効性」で述べたように、本プロジェクトのアウトプットは順調に達成されはじめており、投入に対するアウトプットの産出状況も特に問題はないといえる。

また、本プロジェクトの多くの活動を占める現職教員やEC教官に対する研修など、プロジェクトで提供している各種研修では、参加者への日当等が他のドナーによる研修 ( 主にUNICEF ) よりも低く抑えられているため、低コストで活動が実施されているといえる。

加えて、「4-5 実施プロセスにおける特記事項」の貢献要因で述べたように、本プロジェクトでは前段の開発調査時代から長くCCA活動に従事しているカウンターパートが多く、DEPT局長をはじめ、現場で専門家と一緒に業務を行っているBERDCスタッフまでプロジェクトの目的・内容をよく理解している。このコンセンサスが円滑な活動実施につながり、プロジェクトの効率性を保障する要因にもなっている。

以上より、本プロジェクトは効率的に実施されていると判断される。

#### 5 - 4 インパクト

本プロジェクトのインパクトについて、上位目標（2015年までに国全体の90%の小学校にCCAが普及する）の達成見込みによりインパクトの是非を判断するのは現時点ではまだ早い。現在のところ、プロジェクトはその達成に向けて正しい軌道にあるといえる。教育省のCCA全国普及に係る政策・計画自体に変更はなく、現時点では全国普及における強いコミットメントが示されているため、プロジェクト終了後、教育省がこの全国普及計画を実際にオペレーションしていくかどうかによる。教育省のコミットメントを確保しておくために、プロジェクト終了までに後述の「第6章 提言及び教訓」で示される提言の1（詳細案も含んだ「CCA全国普及計画」の作成）を実行に移しておくことが必要となる。全国普及の際には、プロジェクトのパイロット・タウンシップにおいて培われた知識・経験・ノウハウ等を他のタウンシップに確実に広めていくことが望まれる。

一方、プロジェクト計画時に予期していなかった正負の影響について、本プロジェクトの間接的効果として、以下のようなプラスのインパクトがあった。

本プロジェクトではDBEの職員がカウンターパートに加わったが、実施機関であるDEPTとDBEは同じ教育省の局であるものの、これまで両者の交流はあまりなく、それぞれの職員と一緒に業務を行うことはほとんどなかった。本プロジェクトによって両者の交流・コミュニケーションが広がり、共に業務を行うことは良い経験であることが関係者により認められた。

「4-3 アウトプットの産出状況(達成度)」におけるアウトプット2の結果で述べたように、本プロジェクトで実施している研修に、もともとの対象ではない僧院学校の教員などが参加していた。このように、現場レベルではプロジェクトが本来対象としていなかった学校・教員にも影響を与えている例がみられ、将来の全国普及の際には、更にプロジェクトの影響が大きくなることも期待される。

UNICEFによる「Child Friendly Schools : CFS」プロジェクトの実施対象タウンシップのうち、5タウンシップの関係者が本プロジェクトの研修に自費負担で参加した。

プロジェクト終了後に発現することが期待されるインパクトとして、小学校教員の指導力向上による授業の質の向上、そして最終裨益者である児童のパフォーマンスの向上が期待される。児童のパフォーマンス向上については、修了率の向上（中退率の減少）、学習意欲、成績、理解力の向上などが考えられるが、それらの向上をどう計るかについてプロジェクト終了までに検討する必要がある。本件についても後述の「第6章 提言及び教訓」で述べる。

反対に、環境や社会配慮面など、本プロジェクトの負の影響については実施中に報告がなく、今後もプロジェクトによるマイナスのインパクトが生じることは考えにくい。

#### 5 - 5 持続性

本プロジェクトの今後の持続性について、政策・制度面、組織面、技術面、財務面の観点からそれぞれ検討する。



#### 5 - 5 - 1 政策・制度面での持続性

教育省は2015年までのEFA目標達成をめざしており、2011/12～2015/16年度の「5カ年中期教育開発計画（Five-Year Medium Term Education Development Plan）」において、CCAの全国普及が計画されている。現職教員に対するCCA研修は、プロジェクトで現在実施しているカスケード方式から少し変更させて、中央レベル、state/regionレベル、タウンシップレベルの3段階で、1年に90タウンシップずつ実施していくことが計画されている（2015年には国内のすべてのタウンシップがカバーされる見込み）。研修のモニタリング・評価も行い、パフォーマンスの悪い教師に対してはフォローアップ研修なども行っていく見込みである。

#### 5 - 5 - 2 組織面での持続性

上記5カ年中期計画の下で、CCA全国普及に必要な人員等は配置される見込みである。多くのカウンターパートが現在所属しているBERDCは、プロジェクト終了後はDEPT内の「Teacher Education Section」として新設される予定であり、BERDCスタッフのカウンターパートは同セクションにおいて、プロジェクト終了後も引き続きCCAの普及活動に従事していく見込みである。全国普及の際にもBERDCスタッフが全体の調整・ファシリテーションの中心的な役割を果たしていくことが望ましい。

#### 5 - 5 - 3 技術面での持続性

カウンターパートであるBERDCスタッフは、CCAに関する技術的な知識・ノウハウ等は既にもっており、プロジェクト終了後のCCA全国普及に向けて、十分な数のマスタートレーナーも養成される見込みである。全国普及において、プロジェクトでつくった仕組み・方法によって研修を実施していけば、技術面での持続性はある程度保障されているといえる。ただ、マネジメントに関しては現在、カウンターパートのうちプロジェクト・マネジャー一人に依っている面があり、全国普及の際には他のカウンターパートもマネジメントに積極的に関わっていくよう、彼らのマネジメント能力を更に高めていくことが望まれる。

#### 5 - 5 - 4 財務面での持続性

現在、教育省は上記5カ年中期計画の下での2012/13～2014/15年度のCCA普及計画予算案を作成中であり、この予算案では教員用指導書（理科・社会・総合学習の3教科、計7冊）及び研修教材の印刷費用、研修実施費用（参加者への日当・宿泊費も含む）等の費用が計上されている。各種印刷物は現在のもより材料の質を下げてコストを抑えることにしている。この予算案が承認されるのは、省庁再編のあとになる。

### 5 - 6 結 論

本プロジェクトの活動は順調に実施されており、EC強化、現職教員研修、自主研修活動促進、算数指導書開発の各アウトプット及びプロジェクト目標の達成に向けて進んでいる。現時点で有効性、インパクト、持続性の是非を判断することは時期尚早であるが、2015年までにCCAを全国に普及させるという上位目標に向かって、本プロジェクトは正しい軌道にあるといえる。各アウトプットのなかで達成状況がやや弱いと思われる自主研修活動の促進について、残りの協力期間で強化を図り、引き続き本件の活動を進めていくことが求められる。

プロジェクト終了後の課題として、CCAの全国普及が達成されれば全国の多くの小学校において、プロジェクトの教員用指導書に基づいた授業が実践されることになるが、児童が使っている教科書はCCA導入以前のものであるため、指導書の内容と齟齬が生じているだけでなく、CCA授業による効果発現にも影響を与える可能性がある。児童が実際に見て触れるのは教科書であるため、今後CCA授業の質を高めていくためには、カリキュラム改訂も含めた教科書の改訂を視野に入れることが必要と考える。

## 第6章 提言及び教訓

### 6 - 1 提言

#### 6 - 1 - 1 CCAによる教師の意識改革とそのインパクト

ミャンマーでは80年代に開発されたカリキュラムに基づいて開発された教科書が教育現場で使われ、知識偏重型の進級試験が実施されているために、カリキュラムの意図する学力と児童が獲得する学力との間に大きな乖離があるようである（聴取結果による）。通常その国のカリキュラムのめざす学力を達成するためにCCAが採用され、CCAのTeaching skillsが技術移転され、授業が改善、その結果としてカリキュラムの意図する学力を児童が獲得する、というプロセスを取ると考えられる。しかし、カリキュラムの意図する学力と実際児童が獲得し進級試験により価値づけされる学力が異なるという背景は、CCAの価値づけを若干困難にする側面も有している。

しかしこの困難な点は、同時に教師の授業観、教育観に対する変容を求めるものであるともいえる。この教師の価値観の変容は、学力に対する見方も変える可能性を内包しており、将来的にカリキュラムの意図する学力と、進級試験により顕在化され価値づけされる児童の学力との乖離を少しずつ埋めていく役割を果たすかもしれない。

#### 6 - 1 - 2 ミャンマーの伝統的な授業にみる教師の姿勢とCCA普及の可能性

調査団はヤンゴン市内のプロジェクトの介入を受けていない小学校を訪問して4年生理科「気候」の授業を見学する機会を得た。授業は従来型の講義形式であったが、復習 教科書を使った学習内容の説明 教科書の重要な箇所をノートに写させる活動 問題演習 本時のまとめとある程度の授業の構造をもった授業展開を実施した。特に児童に重要な点をノートに書かせる時間を十分保証したやり方は従来型の授業とはいえ、ただ教師の言うことを座って聞いているという受身の学習とは違うものであった。また、教師の説明が一方的、高圧的ではなく、子どもたちがよくしつけられていた。このような授業展開ができる教師は、今後のCCA全国普及プロセスの中でTG( Teacher's Guide )のコンセプトを理解して授業改善に役立てることにそれほど困難は伴わないのではないか、という印象をもった。従来型の授業を1つしかみることはできなかったが、本教師のような授業展開ができるミャンマー人教師が多く存在すると仮定すれば、このような教師文化をもったミャンマーは、CCAを受け入れる土壌が存在する国であり、JICAの技術協力学スキームを適応することによって大きなインパクトが期待できる国であるかもしれない。

#### 6 - 1 - 3 新規教員養成ECとCCA

ミャンマーは現在官立のECのみで教員を養成しており、プロジェクトで強化したECがすべての新任教員を育成していることとなる。ミャンマーの初等教育課程教員養成は1年間であり、1年の3分の1を教育実習に充てることから、実質的にEC内で授業を受けるのは6カ月ほどの期間である。短い期間ではあるが、プロジェクトの開発した学生向けのテキストは実際に使用されており、その有効性が確認されている。またEC教員は1年間で3グループの新入生を迎えるために、同じ講義を年3回実施することとなり実践を通してCCAに関連する講義内容の指導力を強化させている。またEC教官への聴取結果によるとインフォーマルな指導上の情報交換を教員間で実

施する教師文化もプロジェクト導入以前からECに存在しているようであり、CCA普及の土壌が伝統的に存在したのではないかという印象をもった。

今後継続的に基礎的なCCAを理解した卒業生すべてが、年々着実に教員となっていくことを考えると、プロジェクトの採用したEC強化戦略は非常に的を得ていたといえるのではないだろうか。

#### 6 - 1 - 4 ミャンマーの特殊事情とJICA協力活動の継続

本調査を通してプロジェクトに対するミャンマー側のコミットメントの強さが他国の同様プロジェクトに比べても非常に強いことが確認された。例えば教育省からプロジェクト事務所に配属されているC/Pの人数は専属が11名、パートタイムが12名で合計23名だが、これ以外に算数指導書の現地検証協力校の教員17名、CCAモデル校の教員21名、地方の研修活動を管理するECコーディネーター20名（全国20校の各校から1名）など教材や手法の開発に対する協力者は合計58名、プロジェクト対象40タウンシップにおけるCCA研修や現地でのモニタリングにおいては2,780名程度のトレーナー（マスタートレーナー及びクラスタートレーナーの総数）と230名前後の行政管理者がプロジェクト活動に参加している。教材開発、研修プログラム開発、研修実施等のために教育省からプロジェクトに対して提供されている作業スペースは4階建てビルを家具付きでおよそ1,000m<sup>2</sup>（303坪）の占有スペースとミャンマー側のコミットメントとプロジェクトに対する期待の強さを感じさせる。既にプロジェクトに対する投入としてではなく、自国の教育改善のための取り組みとして教育省のリソースが全面的に投入されているといっても過言ではない。

しかしミャンマーは政策、行政システム、人材の質、予算など教育分野の課題が多い。ミャンマーの教育政策でめざす教育のアクセスと質改善への継続的な取り組みは、自立発展の観点からいえば十分とは言い難く、外部からの支援が必要である。現在教育分野の主な支援はJICAのSCCAプロジェクトとUNICEFのCFSしかない。しかしミャンマーの現政権をとりまく国際環境をかんがみると、新たな援助の導入が極めて困難である。数年ほど前よりEU、オーストラリア国際開発庁（Australian Agency for International Development：AusAID）等が教育開発支援への参入のために現地政府にアプローチしているがいまだに受け入られていない。また関係者との信頼関係が提案の影響力や活動の実現性に強い影響を及ぼすが、この信頼関係の構築に長い年月を要する。そのため、ミャンマーでは新たな分野あるいは新たな課題への取り組みへの投入を行うとしても、期待される成果や活動が軌道に乗るには早くても2～3年、状況が悪ければ4～5年はかかると予想される。

一方では、外国のドナーが限られているため、JICAの教育分野のインプットに対するインパクトが大きく、プロジェクトの効果がみえやすい。理科・算数科・社会科・総合学習科（生活科）の4教科を中心に授業改善が行われ、子どもたちの学力が向上するとなればこれは明らかに日本の技術協力の功績といえ、今後同国との外交関係を支える非常に大切な基盤となるであろう。

ミャンマーの教育政策長期計画でめざしている教育の質の改善に寄与するため、ミャンマーの基盤を担う子どもたちの教科の理解を深め、考える力や自ら進んで学ぶ姿勢を養うCCA普及に対して何らかの形で継続的に支援を実施することはミャンマーとのより密接な外交関係を構築していくうえで重要と考える。またこれまでに時間をかけて築いた信頼関係や実施体制・人

材・設備・ノウハウ等を生かし、本プロジェクトで掲げている上位目標の実現に向けて支援することは、より効果的・効率的な援助を行う視点からも重要ではないかと思料する。

## 6 - 2 教 訓

### 6 - 2 - 1 ミャンマー側のC/P配属にみるオーナーシップの高さとプロジェクト成果

本プロジェクトの現職教員研修、新規教員養成、算数指導書開発の3つのコンポーネントに対し、それぞれ専属C/PとパートタイムC/Pが多く配属されている。また、開発調査時からのC/Pも勤務を続けており、CCAを十分理解した優秀なC/Pが多いといえる。このように、ミャンマー側がCCAの全国普及プロセスを見据えつつ量的にも能力的にも十分なC/Pを配属したことが、本プロジェクトの活動実施及び成果の発現に大きく貢献しているといえる。

### 6 - 2 - 2 ミャンマーの実態や研修目的に合った研修形態の選択

本プロジェクトでは、フェーズ において2層構造によるカスケード型の研修形態を採用したが、結果的にEC教官に大きな負担がかかった。これを踏まえ、フェーズ ではカスケードを1層増やすことにより、EC教官の負担を軽減する研修形態を導入した。また、現職教員研修のコンポーネントにおいては、カスケード型研修でCCAの基本的な理解を促しつつ、クラスター型研修でCCAの基本的な理解に基づく授業実践力を身につけるようにデザインされている。

このように、ミャンマーの実態や研修目的にふさわしい研修形態を選択したことにより、効果的・効率的な研修メカニズムの構築につながったといえる。

### 6 - 2 - 3 教室現場を重視した教師用指導書の開発メカニズム

算数科教師用指導書の開発については、C/Pによる原案作成、C/Pによる実地検証、日本人専門家とC/Pとの協議など、非常に丁寧なプロセスが導入されている。このプロセスが、ミャンマーの実態に合致した汎用性の高い教師用指導書の開発に貢献しているといえる。

## 付 属 資 料

- 1 . 協 議 議 事 録 ( M / M )
- 2 . 評 価 グ リ ッ ド 結 果 表
- 3 . 評 価 グ リ ッ ド
- 4 . 質 問 票

MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN  
JAPANESE MID-TERM REVIEW TEAM  
AND  
THE DEPARTMENT OF EDUCATIONAL PLANNING AND TRAINING,  
THE MINISTRY OF EDUCATION OF  
THE UNION OF MYANMAR  
ON  
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
THE PROJECT FOR STRENGTHENING CHILD-CENTERED APPROACH  
PHASE 2

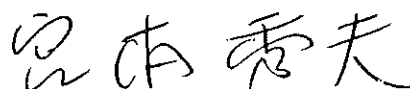
The Japanese Mid-term Review Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) headed by Mr. Hideo MIYAMOTO, conducted survey from 17 January to 4 February 2011 for the purpose of mid-term review of “the Project for Strengthening Child-Centered Approach Phase2”(hereinafter referred to as “the Project”).

During its stay in the Union of Myanmar (hereinafter referred to as “Myanmar”), the Team exchanged views and had a series of discussions with the Myanmar authorities concerned on the Project for further improvement of the Project.

As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.



U Bo Win  
Director General  
Department of Educational Planning and  
Training  
Ministry of Education  
The Union of Myanmar



Mr. Hideo MIYAMOTO  
Leader  
Mid-term Review Team  
Japan International Cooperation Agency  
(JICA)

**ATTACHED DOCUMENT**

1. Both sides agreed to the content of the Mid-Term Review Report as attached.
2. Both side agreed to procedure and schedule recommended in the Mid-Term Review Report as "Procedure and Schedule for development of CCA Dissemination Plan"
3. Both sides agreed to approve the draft of revised PDM written in the Recommendation as "Revision of the PDM" written in the Mid-Term Review Report.

Attached

- Mid-Term Review Report





Mid-Term Review Report  
On  
Technical Cooperation  
For  
The Project for Strengthening Child-Centered Approach Phase 2  
In  
The Union of Myanmar

Japan International Cooperation Agency (JICA)

And

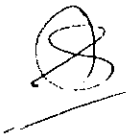
Department of Educational Planning and Training (DEPT)  
Ministry of Education (MOE)



## Table of Contents

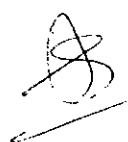
1. Outline of Mid-Term Review	
1.1 Objectives of Mid-Term Review	1
1.2 Method of Mid-Term Review	1
1.3 Schedule of Mid-Term Review	3
1.4 Members of Mid-Term Review Team	3
1.5 Outline of the Project	3
2. Progress of the Project	
2.1 Inputs	6
2.2 Achievement of Outputs	9
2.3 Prospect for Achievement of Project Purpose	13
2.4 Implementation Process	14
3. Evaluation by Five Criteria	
3.1 Relevance	16
3.2 Effectiveness	18
3.3 Efficiency	19
3.4 Impact	19
3.5 Sustainability	20
4. Recommendations and Lessons Learned	
4.1 Recommendations	22
4.2 Lessons Learned	23

## ANNEXES



## Abbreviations

ATEO	Assistant Township Education Officer
BERDC	Basic Education Resource Development Center
CCA	Child-Centered Approach
CFS	Child-Friendly School Project
DBE	Department of Basic Education
DEPT	Department of Educational Planning and Training
EC	Education College
EFA	Education for All
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
LCA	Learner-Centered Approach
MBESS	Myanmar Basic Education Sector Study
MOE	Ministry of Education
PDM	Project Design Matrix
TEO	Township Education Officer
UNICEF	United Nations Children's Fund



## 1. Outline of Mid-Term Review

### 1.1 Objectives of Mid-Term Review

The Project for Strengthening Child-Centered Approach Phase 2 (SCCA2) in Myanmar was launched on September 2008 and will be completed on March 2012. With the remaining project period of approximately one year, the Mid-Term Review team was dispatched by Japan International Cooperation Agency (JICA) for the purpose of examining the progress of the Project. The objectives of the Mid-Term Review are as follows:

- (1) To review the inputs, activities and achievements of the Project;
- (2) To clarify the issues to be addressed for the successful implementation of the Project for the remaining period and make suggestions based on the results of review;
- (3) To revise the Project Design Matrix (PDM)<sup>1</sup> in order to properly monitor the progress of the Project, if necessary;
- (4) To present and discuss the results of review with the Myanmar authorities concerned and exchange opinions with the Myanmar counterparts concerned.

### 1.2 Method of Mid-Term Review

In accordance with the JICA guideline for the project evaluation, the Mid-Term Review was conducted in the following process.

- (1) PDM was adopted as a framework of the review exercise, and the project achievements were assessed in relation with respective "Objectively Verifiable Indicator." The level of inputs and activities were evaluated in comparison with the output levels.
- (2) Analysis was conducted on the factors that promoted or inhibited the achievement levels including issues relating to both the project design and project implementation process.
- (3) An assessment of the project results was conducted based on the Five Evaluation

---

<sup>1</sup> The revised PDM (Ver. 3) and Chart for Comparison between before and after revision of the PDM are attached as ANNEX 1.

Criteria: Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability.

- (4) Recommendations for the project stakeholders for the remaining implementation period and lessons learned were formulated for future projects to be implemented by both Myanmar and Japanese governments.

Information and data necessary for the analysis was collected mainly by reviewing the project progress reports and documents, and interviewing to the project stakeholders<sup>2</sup>. Both quantitative and qualitative data were gathered and utilized for the analysis. While quantitative data were obtained from the results of the Baseline Survey & Monitoring Report, qualitative data were gathered by the interviews.

The definition of the Five Evaluation Criteria that were applied in the analysis for the Mid-Term Review is given in the table below<sup>3</sup>.

Five Evaluation Criteria

Relevance	The relevance is a measure for determining whether the outputs, the purpose and the overall goals of the project are still in line with the priority needs and concerns at the time of review.
Effectiveness	The effectiveness is concerned with the extent to which the project purpose has been achieved, or is expected to be achieved, in relation to the outputs produced by the project.
Efficiency	The efficiency is a measure for productivity of the implementation process: how efficiently the various inputs are converted into the outputs.
Impact	The impact is intended or unintended, direct or indirect, positive or negative changes that occur as a result of the project.
Sustainability	The sustainability is a measure for determining whether or not the outcomes of the project are likely to continue after the project comes to an end.

<sup>2</sup> The list of interviewees is attached as ANNEX 3.

<sup>3</sup> According to the criteria, the specific Evaluation Grid in this project is attached as ANNEX 6.

### 1.3 Schedule of Mid-Term Review

The Mid-Term Review was undertaken from 17 January to 11 February, 2011<sup>4</sup>.

### 1.4 Members of Mid-Term Review Team

The members of the Japanese Mid-Term Review team are as follows.

Mr. Hideo Miyamoto	Team Leader	Chief Representative, JICA Myanmar Office
Mr. Norihiro Nishikata	Educational Development	Senior Advisor, JICA Headquarters
Mr. Kazuyuki Kakuda	Educational Planning	Basic Education Division 1, Human Development Department, JICA Headquarters
Mr. Hajime Matsuoka	Cooperation Planning	Representative, JICA Myanmar Office
Ms. Sawa Hasegawa	Evaluation Analysis	Consultant, Japan Development Service

### 1.5 Outline of the Project

#### Background of the Project

The government of Myanmar plans that all school aged children have access to and complete free and compulsory primary education of good quality by 2015, as stated in Myanmar Education for All (EFA) goals. One of strategies to achieve this goal is “Developing and Expanding Child-Friendly Schools” in Myanmar overall. Within the strategy, the practice of CCA is needed in the classroom so as to improve quality and accelerating access to basic education.

The Japanese government has been supporting CCA so as to contribute the achievement of Myanmar EFA goals since 1997. From 1997 to 1999, JICA dispatched an

---

<sup>4</sup> The detail of the schedule is attached as ANNEX 2.

education expert to Myanmar several times in the field of curriculum development at the primary school level. The expert suggested revising the curriculum of primary schools, such as re-introduction of science, integration of geography and history into social studies, and introduction of general studies at the lower grades. Accordingly, the national curriculum of primary level was revised and implemented in 2000.

From 2001 to 2004, DEPT and JICA jointly conducted the “Myanmar Basic Education Sector Study (MBESS).” As a result of the study, teacher’s guides were developed which guides primary school teachers how to teach CCA lesson in the subjects of Basic Science, Social Studies and General Studies. In addition, the project made suggestions to strengthen the capacity of Education Colleges and proposed the way of improving the school facilities to enhance CCA implementation.

The Myanmar government highly appreciated the result of the study and requested the support to extend CCA nationwide from the Japanese government. Based on it, DEPT and JICA started a technical cooperation project called the “Project for Strengthening Child-Centered Approach” from December 2004. In this project, DEPT and JICA developed a pilot model for CCA extension, giving training 134 supervisors (Township Education Officers, Assistant Township Education Officers and Cluster-heads, etc.), 483 Education College teachers and 21,034 primary school teachers in the target townships. This Project successfully completed in December 2007.

Recognizing the impact of the Project, the Myanmar government requested the continuous support from the Japanese government in August 2007. In response to this request, the Preparatory Study mission was dispatched in March 2008 and the framework of the Project was officially agreed between JICA and the Myanmar authorities concerned with the signing of the Record of Discussions on September 19, 2008. The Project started in September 2008, which will be ended in March 2012.

The grand design of the Project is drawn in PDM, which was prepared on 9 October, 2010 as Version 2.0. Its summary is in the next page.

**Summary of the Project**

Overall Goal	CCA will be disseminated to 90% of primary schools in Myanmar by 2015.
Project Purpose	A mechanism to disseminate CCA nationwide by the efforts of the Ministry of Education is established.
Outputs	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is strengthened.</li> <li>2. The system of In-service teacher training for nationwide CCA dissemination is established.</li> <li>3. The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.</li> <li>4. Mathematics teachers' guide and training materials for dissemination are developed.</li> </ol>
Target Groups	<p>&lt;Direct targets&gt;            Staffs of BERDC, Teacher educators of 20 ECs, TEOs/ATEOs, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships</p> <p>&lt;Indirect targets&gt;            Trainees of ECs (approximately 9,535), Students of primary schools (approximately 1,472,112)</p>
Target Area	40 townships as for Phase 2 and 27 townships as for Phase 1



## 2. Progress of the Project

### 2.1 Inputs

Inputs from both Japanese side and Myanmar side have been made in accordance with PDM. The inputs indicated in PDM and the actual inputs are shown in the tables below.

#### Inputs from Japanese side

PDM	Actual
<p><b>Assignment of Japanese experts</b>            &lt;Maximum 5 for long-term experts&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Team Leader/CCA extension plan</li> <li>- CCA Training/Monitoring</li> <li>- EC Capacity Building</li> <li>- Mathematics Teacher's Guide Development</li> <li>- EC Monitoring</li> </ul> <p>&lt;Short-term experts (if necessary)&gt;</p>	<p><b>Assignment of Japanese experts</b>            &lt;Long-term experts&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Team Leader/CCA Extension Plan</li> <li>- CCA Training/Monitoring</li> <li>- EC Capacity Building</li> <li>- Mathematics Teacher's Guide Development</li> <li>- EC Monitoring/Coordinator</li> </ul> <p>&lt;Short-term experts&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- CCA Training/Monitoring</li> <li>- Mathematics Teacher's Guide Development</li> <li>- Educational Technology</li> <li>- Educational Theory</li> </ul> <p>Total duration of dispatch (until January 2011): 52.20 M/M</p>
<p><b>Counterpart Training</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Mathematics Teacher Educators</li> </ul>	<p><b>Counterpart Training</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Training for Mathematics Teacher Educators provided in Japan: 7 – 26 February 2010</li> </ul> <p>Trainees received: 6 persons</p>
<p><b>Activity Cost</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Cost for printing and dissemination of</li> </ul>	<p><b>Activity Cost</b></p> <p>Printing and dissemination cost for</p>

<p>teacher's guides to Phase 1 and 2 townships</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Transportation cost and accommodation for BERDC counterpart personnel</li> <li>- Accommodation and Daily allowance during staying in Yangon for BERDC counterpart participated from DBE2</li> <li>- Printing and dissemination cost for training materials for Central and Local training (including supervisor training if necessary)</li> <li>- Support for lunch allowance for Central training and Local training (including supervisor training if necessary)</li> </ul>	<p>teacher's guidebook, Transportation cost, accommodation and daily allowance for training, Printing and dissemination cost for training materials, etc.</p> <p>Total cost (until January 2011): 176,860 US dollars</p>
<p><b>Provision of necessary equipment</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Purchase and delivery of reference books for BERDC and ECs if necessary</li> </ul>	<p><b>Equipment provided</b></p> <p>Reference books for BERDC and ECs, PC, printer, projector, motorcycle for TEO etc.</p> <p>Total cost (until January 2011): 187,221 US dollars</p>

**Inputs from Myanmar side**

PDM	Actual
<p><b>Counterpart Personnel</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project manager: 1 (full time)</li> <li>- Capacity Building of EC/Development of CCA Training System: 14 (full-time 7, part-time 7)</li> <li>- Development of Mathematics Teacher's Guide: 5 (full-time 3, part-time 2)</li> <li>- EC focal person: 1 each from 20 ECs: 20 (part-time)</li> <li>- Supervisor Training: 1 each from DBE 1 and 3: 2 (part-time)</li> </ul>	<p><b>Counterpart Personnel</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project manager: 1 (full time)</li> <li>- Working Group 1: 6 in total (full-time 3, part-time 3)</li> <li>- Working Group 2: 4 in total (full-time 4)</li> <li>- Working Group 3: 6 in total (full-time 3, part-time 3)</li> <li>- CCA local instructor: 1 each from 20 ECs, 20 in total (part-time)</li> <li>- DBE focal person: 2 from DBE1, 1 from DBE2 and 3 from DBE3: 6 in total (part-time)</li> </ul>

<p><b>Office Space</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Office</li> <li>- Running expenses for the Project office (ex. Electricity, water and telephone charges)</li> </ul>	<p><b>Office Space</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Office in BERDC</li> <li>- Running cost for the Project office (Electricity, water and telephone charges)</li> </ul> <p>Total cost (until December 2010): 7,047,065 Myanmar Kyat</p>
<p><b>Activity Expenses</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Printing and dissemination of the revised EC modules and trainee's books</li> <li>- Travel allowance, accommodation and daily allowance for EC teacher educators who attended the Central level training</li> <li>- Travel allowance, accommodation and daily allowance for participants who attend the Central or Local level training according to the government regulation including supervisor training</li> <li>- Travel allowance, accommodation, and daily allowance for those who attend monitoring activities to the cluster meeting and/or primary schools, if necessary</li> </ul>	<p><b>Activity Expenses</b></p> <p>Transportation cost, accommodation and daily allowance for training, etc.</p> <p>Total cost (until December 2010): 4,154,340 Myanmar Kyat</p>

As shown in the tables above, inputs from both Japanese side and Myanmar side have been basically made as planned.




## 2.2 Achievement of Outputs

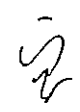
The present achievement level of each output can be examined by the results of “Objectively Verifiable Indicators” set down for each output in PDM. The results of interviews to the Project stakeholders are also considered for examining the achievement level. The indicators and their current results of each output are shown in the following tables accordingly<sup>5</sup>.

Output 1: The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is strengthened.

Indicator	Current Result
1. In 20 ECs, EC teacher educators conduct lessons using the revised EC modules.	Of 14 ECs that have been monitored by the Project up to now, almost all of EC teacher educators have conducted lessons using the revised EC modules.
2. Activities to improve EC lessons are conducted among teacher educators.	16 workshops on strengthening LCA, teaching method and bloc teaching were provided to EC teacher educators by now. The lesson studies to aim for the improvement of EC lessons are conducted among teacher educators in all ECs.
3. 50% of graduates from 20 ECs have basic understanding of CCA concept.	Of 14 ECs that have been monitored by the Project up to now, about 90% of EC students have got the basic level of understanding of CCA concept.

From the above results of indicators, it can be said that the achievement level of Output 1 is reasonable at present and this output is expected to be achieved by the end of the Project.

<sup>5</sup> Summary including the numbers of participants of training and workshops provided by the project is attached as ANNEX 5.

Output 2: The system of In-service teacher training for nationwide CCA dissemination is established.

Indicator	Current Result
1. In 90% of clusters in Phase 1 townships, follow-up training are implemented for primary school teachers.	Follow-up training for Phase 1 townships is supposed to be implemented in the next fiscal year.
2. In 90% of primary school teachers in Phase 2 townships receive CCA in-service teachers training.	Over 100% target primary teachers (16816 of 16123) <sup>6</sup> in 23 townships of Phase 2 had Primary Teachers Training (PTT) by now. PTT is going to be continuously provided to primary teachers in 17 townships as well in 2011.
3. 200 qualified Master Trainers are trained for nationwide CCA dissemination.	160 EC teachers and ATEO had Master Trainers Training (MTT) by now. More than 200 master trainers are going to be trained after finishing MTT to be implemented in 2011.
4. 1.800 Cluster Trainers are trained for CCA dissemination in Phase 2 townships.	1396 cluster heads and primary assistant teachers had Cluster Trainers Training (CTT) by now. More than 1800 cluster trainers are going to be trained after finishing CTT to be implemented in 2011.
5. Quality of CCA In-service training package is developed.	Four kinds of CCA training kit such as Mater Trainers Training Kit, Cluster Trainers Training Kit, Primary Teachers Training Kit and Supervisors Training Kit were developed and revised as necessary.
6. A plan for CCA in-service teacher training is developed.	The Plan for CCA in-service teacher training is developed every year during the process of Project.

<sup>6</sup> The data over 100% includes the participants of teachers from monastery schools, temporary teachers supported by community and general workers from government schools which are not target groups in the project.

From the above results of indicators, it can be said that the achievement level of Output 2 is also reasonable at present and this output is expected to be achieved by the end of the Project.

Output 3: The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.

Indicator	Current Result
1. In 80% of Phase 1 townships, On-site training activities are introduced.	Follow-up training for Phase 1 townships is supposed to be implemented in the next fiscal year.
2. In 80% of Phase 2 townships, On-site training activities are introduced and conducted regularly.	Of 13 townships that have been monitored by the Project up to now, 11 townships have conducted cluster meeting (CBM) on On-site training activities and 10 townships have conducted school meeting (SBM) on On-site training activities.
3. In 70% of Phase 1/2 townships, ATEOs are able to evaluate lessons with the lesson assessment tool developed by the Project.	This indicator is added at the time of PDM revision in October 2010, so the data has not yet been collected.
4. 70% of townships regularly submit reports on On-site training.	This indicator is added at the time of PDM revision in October 2010, so the data has not yet been collected.
5. Educational administration personnel of Project target townships are trained on how to implement On-site training by DBEs and BERDC.	182 TEOs, Assistant Supervisors (AS) and Assistant Inspectors (AIS) of state/division level, and DBE staffs had Supervisors Training (SVT) by now.
6. Resource materials are provided regularly by DEPT to support implementation of On-site training at least once a year by BERDC.	Resource materials such as CCA Management Kit, Lesson Analysis of BEFORE and AFTER CCA Training (DVD), CCA Resource Books are made by the Project and distributed to the pilot townships.

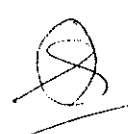
From the above results of indicators, it can be said that the achievement levels of Indicator 2, 5 and 6 are reasonable at present and Indicator 1 is expected to be achieved after providing follow-up training to Phase 1 townships.

Although the data for Indicator 3 and 4 has not yet been collected, it is predicted that the results of two indicators have not reached to the satisfactory level at the moment. The Project originally planned to use the existing TEO/ATEO monitoring system in order to monitor the situations of On-site training, where TEO/ATEO should visit all schools in their township and submit a monitoring report every three month to DBE, but it was made known that this system had not been functioned well mainly due to the geographical conditions and few transportation in local area.

For this reason, the Project changed the monitoring way of On-site training from using the existing system to making each cluster and primary school report the situation of cluster meeting and school meeting directly to BERDC through DBE. It is desired to strengthen this new monitoring way during the remaining Project period.

Output 4: Mathematics teachers' guide and training materials for dissemination are developed.

Indicator	Current Result
1. Quality of mathematics teacher's guide is adequate.	The mathematics teacher's guide is elaborated by conducting on-site verification twice for each lesson plan. A Mathematics technical advisor from Myanmar side and experts for Mathematics Teacher's Guide Development from Japanese side are in charge of quality control of the guide.
2. In 70% of Phase 2 townships, Primary Teachers Training regarding mathematics teacher's guide are held.	Primary Teachers Training regarding mathematics teacher's guide is supposed to be implemented in the next fiscal year soon after finishing making the guide.
3. Mathematics teacher's guide covers 50% of total unit for all grades.	The mathematics teacher's guide is developed for 30 units of 54 total units for




	<p>all grades.</p> <p>Achievement of each grade is as follows;</p> <p>1<sup>st</sup> Grade: 5/9</p> <p>2<sup>nd</sup> Grade:7/8</p> <p>3<sup>rd</sup> Grade:7/11</p> <p>4<sup>th</sup> Grade:6/13</p> <p>5<sup>th</sup> Grade:5/13</p> <p>(1 unit is under development)</p>
--	---

From the above results of indicators, it can be said that the achievement level of Output 4 is also reasonable at present and this output is expected to be achieved by the end of the Project.

### 2.3 Prospect for Achievement of Project Purpose

The present achievement level of Project Purpose can be also prospected by the results of "Objectively Verifiable Indicators" set down in PDM. The results of interviews to the Project stakeholders are also taken into consideration. The indicators and their current results of Project Purpose are shown in the following table.

Project Purpose: A mechanism to disseminate CCA nationwide by the efforts of the Ministry of Education is established.

Indicator	Current Result
1. In Phase 1 townships, 70% of primary school teachers improve basic teaching techniques in line with CCA concept.	The data has not yet been collected.
2. In Phase 2 townships, 70% of primary school teachers acquire basic knowledge and skills related to CCA.	In Phase 2 townships in which PTT has been already implemented by now, about 97% of primary school teachers passed the CCA understanding test <sup>7</sup> .
3. Consensus is made among stakeholders regarding a CCA	The CCA dissemination plan has not yet been made and is supposed to be made by

<sup>7</sup> In the townships where PTT was provided in the first year, about 81% of primary school teachers got the level 1 score of the observation sheet and 65% in the second year.






dissemination plan.	November 2011. It is necessary for MOE and Project Team to have fruitful discussions in order to make the reasonable plan.
---------------------	--

From the above results of indicators, it can be said that the achievement level of Project Purpose is reasonable at present and the Purpose is expected to be achieved by the end of the Project. However, the above three indicators are not enough to know the exact achievement level of Project Purpose and it is better to include an indicator that can show the achievement of Pre-service teacher education at ECs. This matter is considered in the revision of PDM proposed in this Mid-Term Review.

## 2.4 Implementation Process

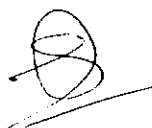
According to the Project reports and interviews, most of the Project activities specified under PDM have been implemented largely on schedule and the activities still under implementation are expected to be completed by the end of the Project.

There were a few cases that caused the delay in the Project activities, where different training for strengthening English and Maths was conducted by MOE and some counterparts had to be engaged in preparing the training. However, it can be said that the Project has been basically implemented smoothly.

As the remarkable factors that contribute to the effective implementation of the Project, the following points should be noticed.

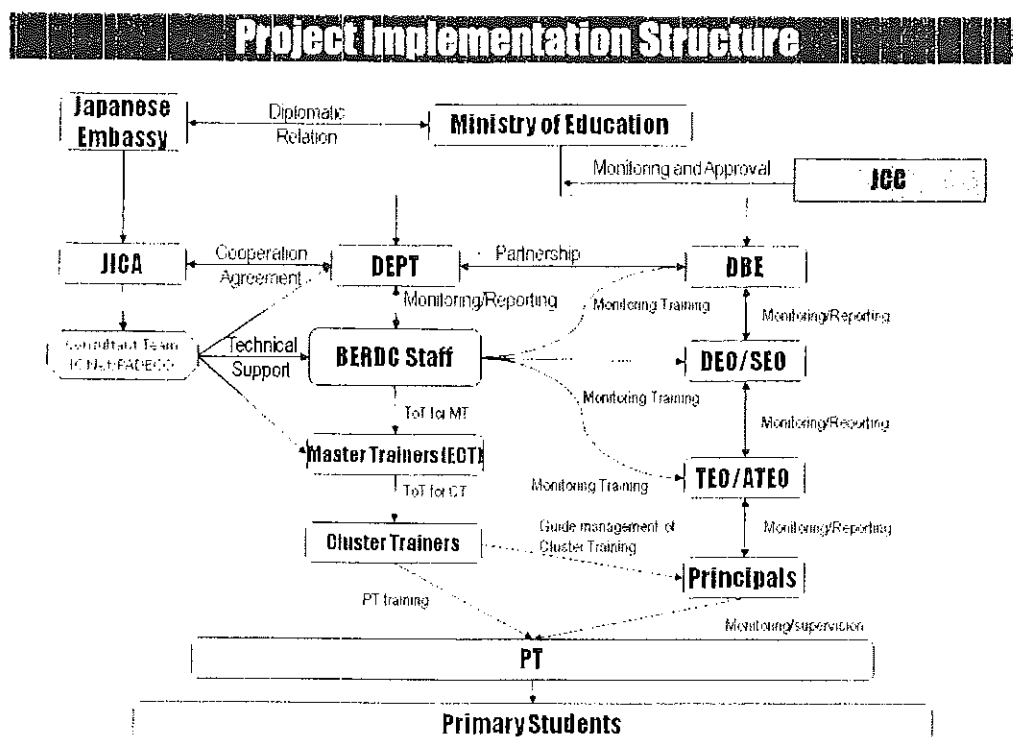
- (1) The attention should be made to the dedicated works by the Myanmar counterparts. The Project implementation is supported by the good participation and strong commitment of counterparts. There are many full-time and part-time counterparts<sup>8</sup> assigned to the Project. This participation surely accelerates the successful implementation of the Project. Although the Project covers a lot of activities that consist of three components and it sometimes causes counterparts much workload, they are willing to cooperate for the improvement of the Project.

<sup>8</sup> The list of counterparts is attached as ANNEX 4.



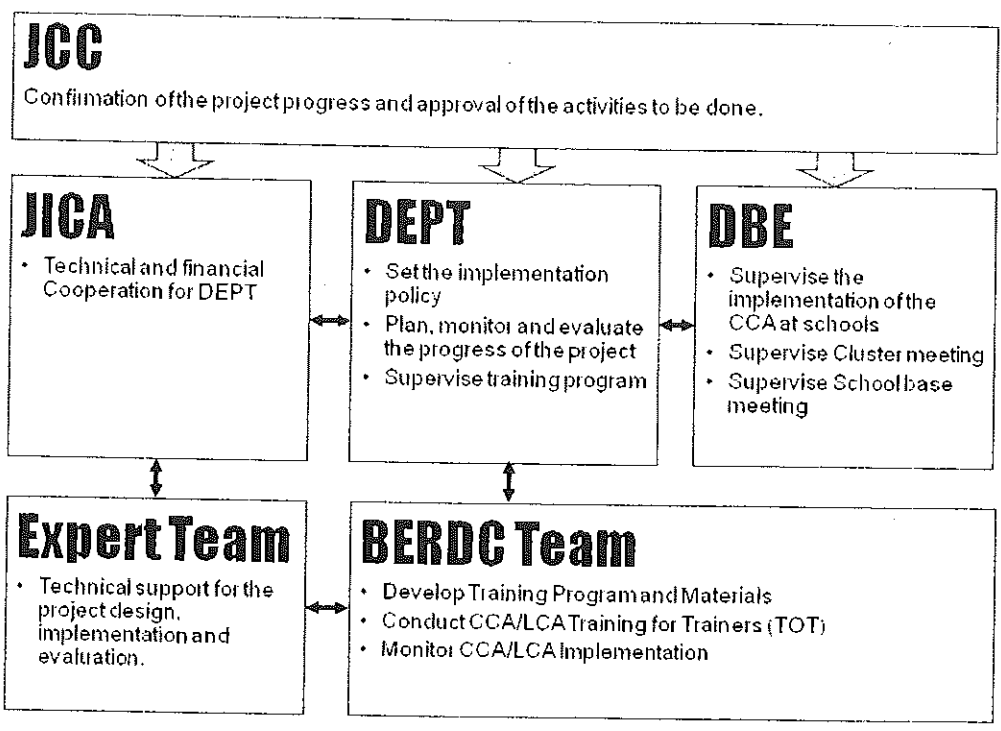

- (2) Another attention should be made to the good communication between Japanese experts and Myanmar counterparts, which has been promoted according to the process of implementation. Japanese experts are providing necessary technical assistance to support the working group activities implemented by counterparts. It can be said that this committed relationship or stable partnership between them has been fostered in the past long cooperation between Myanmar and Japan, which has taken more than ten years.
- (3) The progress of the Project has been regularly reported to the Myanmar authorities concerned at JCC twice a year. The necessary information is shared between Myanmar and Japanese sides and this enables them to modify and improve the Project activities as necessary.
- (4) The cascade system for implementing training adopted in the Project matches to the cultural context of Myanmar well. Since Myanmar people are sincerely trying to practice what they learned in the training, CCA dissemination by this cascade system works well.

The following figures are the implementation structure of the Project and role of the stakeholders.





# Role of the stakeholders



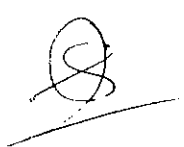
## 3. Evaluation by Five Criteria

### 3.1 Relevance

#### Relevance to the Myanmar's Educational Policy

The Myanmar's national educational policy related to the basic education sector is the "30 Year Long Term Basic Education Development Plan (2001-2030)," which focuses on 'quality improvement of basic education' as one of the basic principles of the plan and 'improvement of teacher education' as its measure of the principle.

"EFA National Action Plan (2003-2015)" is the Myanmar's educational action plan which aims at improvement of the education sector, especially access, quality and relevance, and management of the primary and lower secondary levels. The plan consists of six strategies for achieving EFA goals and one of the strategies is "Developing and Expanding Child-Friendly Schools" throughout Myanmar. Within the strategy, the practice of CCA is specified in the plan.



Educational development still remains the high priority in Myanmar since the time of the Preparatory Study for the Project conducted in March 2008 and the Project Purpose and Overall Goal are in line with the national educational plans that place the emphasis on CCA dissemination in Myanmar. It can be therefore said that the Project is in line with the Myanmar's educational policy at the national level.

#### **Relevance to the Japan's ODA Policy**

The Project Purpose and Overall Goal are also consistent with the Japan's Official Development Assistance (ODA) policy towards Myanmar. This project is categorized in "Projects to meet urgent humanitarian needs" in Japanese ODA Policy towards Myanmar.

#### **Relevance to the Target Groups' Needs**

According to the interviews with the target groups, it can be said that the Project basically meets their needs. The main purpose of the Project, stakeholders' capacity development for CCA dissemination is relevant to their needs. Of those who are direct target groups, the Project highly meets the needs of BERDC staffs and EC teacher educators since they are just engaged in the direct works for CCA dissemination. The needs of TEOs/ATEOs, cluster-heads, head-teachers and primary school teachers depend on individual or personal intention. In terms of the indirect targets and final beneficiary of the Project, the Project meets the needs of the primary school students who had a CCA class address their interests and satisfaction to it.

#### **Appropriateness of the Project Approach and Design**

The Project has taken three approaches as a CCA dissemination strategy, that is, Pre-service teacher education, In-service teacher training and On-site training for teaching improvement. The coverage of Project is too wide and expected that the goal for primary teacher's performance was not set clearly at the beginning of the Project. In the implementation process, the Project clarified expected CCA performance level (Level 1<sup>9</sup>) as achievement level. That is why current approach and design is appropriate.

---

<sup>9</sup> Level 1: Primary Teachers will be able to apply basic CCA competency by the help of Teacher's Guides.



The above relevance is summed up that the relevance of the Project is high.

### 3.2 Effectiveness

Accomplishment of the Project is measured in terms of inputs, activities, outputs and project purpose, all of which are based on PDM. According to the Project reports and the results of interviews to the stakeholders, it can be said that the Project activities implemented so far have been mostly accomplished and functioned. Having already seen in the part of "2.2 Achievement of Outputs," the Project has been achieving some outputs at a desirable rate.


The present achievement level of Output 1 is reasonable and this output is expected to be achieved by the end of the Project.

The present achievement level of Output 2 is also reasonable and it is important to re-identify the current issues to be improved and to modify the activities as necessary in order to "establish" the system of In-service teacher training by the end of the Project.

The present achievement level of Output 3 is a bit weak compared to other Outputs. Since the monitoring way of On-site training was changed for its improvement, it is necessary to focus on continuously strengthening the new way of monitoring system during the remaining Project period. The observation sheet for checking CCA practice was also changed for the practical use of TEO/ATEO, so it is important to devise the way of monitoring system which can be applied to the Myanmar context.

The present achievement level of Output 4 is reasonable and this output is expected to be achieved by the end of the Project.

Being seen in the part of "2.3 Prospect for Achievement of Project Purpose," the Project Purpose is expected to be achieved after all Outputs are achieved. The Project activities for CCA dissemination is still in the process of operation. If the remaining activities are certainly implemented and all levels of the process are completed by the end of the Project, the Purpose is expected to be accordingly achieved by then.



### 3.3 Efficiency

As mentioned in “2.1 Inputs,” inputs from both Japanese side and Myanmar side have been made as planned. Based on the results of interviews to both Japanese side and Myanmar side and site visits as well, it can be said that inputs allocated to the Project are basically appropriate in quantity, quality and timing and that all inputs have been fully utilized for implementing the activities. The achievement level of outputs mentioned in “2.2 Achievement of Outputs” compared to inputs are also reasonable.

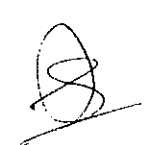
There are some examples that Project inputs have been used in an efficient manner. Since various kinds of CCA training provided by the Project has been implemented at the reasonable cost, the Project activities are efficiently implemented at the lower cost.

Furthermore, there are many counterparts who have been long engaged in the CCA related activities since the time of MBESS and Project practitioners from the Director General of DEPT to BERDC staffs are very familiar with the Project objectives. It contributes to the smooth implementation of the Project activities and to make the Project high in efficiency.

### 3.4 Impact

Regarding the prospect for achievement of Overall Goal of the Project, “CCA will be disseminated to 90% of primary schools in Myanmar by 2015,” it depends on whether the Myanmar government would certainly put the CCA dissemination plan into practice or not after the Project. The Myanmar government has already showed a strong commitment to disseminate CCA nationwide and it therefore depends on whether MOE would certainly operate the CCA dissemination plan.

There are some challenges to be mentioned in the final part of “4.1 Recommendations” for achieving Overall Goal and these challenges need to be overcome during and after the Project. It is too early to know the achievement level of Overall Goal in this stage and it should be evaluated a later year, but it can be at least said that the development process of CCA dissemination is on the right track at present. It is desirable that knowledge, experiences and know-how obtained from the Project pilot townships should certainly spread to other townships in Myanmar in future.



Regarding the positive effects/influences/impacts that were not expected at the time of planning the Project, there is an example that exchange, communication and cooperation between DEPT and DBE have got more facilitated by the Project although they have had few opportunity to work together until then. Another example of positive impact is the collaboration with the UNICEF's CFS project in that CCA training was implemented in five townships under CFS target by their own cost.

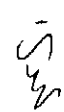

The future impact arising by disseminating CCA nationwide is expected as the quality improvement of the actual class brought about by the improvement of teaching method of teachers. Another positive impact is expected as the improvement of children's performance, such as the changes in completion rate of primary school, motivation for learning, academic performance and deep understanding. It is necessary for both Myanmar side and Japanese side to consider during the Project period how the performance change of children should be measured by applying CCA.

### 3.5 Sustainability

In order to achieve the overall goal of the Project, disseminating CCA nationwide after the Project, the sustainability in view of political/institutional, organizational, technical and financial aspects should be considered.

In terms of the political and institutional sustainability, MOE is planning for disseminating CCA nationwide under the "5 Year National Educational Plan 2011/12 – 2015/16." The cascade system of In-service teacher training is planned to be changed a bit from the present one to forward the cascade in three layers of the central level, state/region level and township level. CCA training is planned to be provided to 90 townships yearly by 2015. Follow-up training is also planned as necessary by conducting monitoring and evaluation of the progress of In-service training. As long as this plan is maintained and supported by the Myanmar government, CCA dissemination will be sustained.

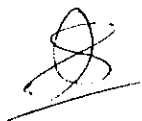
In terms of the organizational sustainability, it is prospected that necessary personnel should be allocated under the above 5 Year Plan. The present function of BERDC is planned to be transferred to the "Teacher Education Section" in DEPT after the Project. Most counterparts are expected to be continuously engaged in the CCA dissemination at



the new section. It is desirable for BERDC staffs to play a role for making the effective coordination and facilitation in disseminating CCA nationwide after the Project.

In terms of the technical sustainability, BERDC staffs have already had technical knowledge and know-how on CCA and sufficient numbers of master trainers are going to be produced for disseminating CCA nationwide by the end of the Project. It would be relatively secured to implement CCA training by copying based on the cascade system developed by the Project once they learned the way of operating the system. While BERDC staffs are now focusing on their duties on carrying on the working group tasks, it is desirable for them to strengthen their administrative and management capacity in future nationwide dissemination.

In terms of the financial sustainability, MOE are now making the draft for budget estimate for the CCA dissemination plan to be effective from 2012/13 to 2014/15 under the above 5 Year Plan. In this budget, the printing cost for teacher's guidebooks (including Natural Science, Social Studies and General Studies, 7 guidebooks in total) and training materials, and implementation cost for training (including transportation cost and daily allowance) are estimated. This draft budget is supposed to be approved by the new government after the reorganization of central government ministries. Since the sufficient amount of budget is required for disseminating CCA nationwide, it is highly expected for MOE to secure the budget for it.





## 4. Recommendations and Lessons Learned

### 4.1 Recommendations

Based on the results of the review, the following four recommendations are made.

#### 1. Procedure and Schedule for development of CCA Dissemination Plan

In the inception report and PDM, it is stated that consensus on CCA Dissemination Plan will be made among stakeholders until December 2011. For further smooth activities, it is necessary to clarify the procedure and schedule for development of CCA Dissemination Plan. It is recommended that the Project will propose the draft of CCA Dissemination Plan at next Joint Coordinating Committee in March 2011 and Department of Educational Planning and Training will share the progress of integration of CCA Dissemination Plan into the educational policies and preparation for conducting nationwide CCA dissemination activities including budget and staff allocation in following Joint Coordinating Committee (scheduled in September 2011).

#### 2. Revision of the PDM

It is recommended to revise the PDM as ANNEX 1 in consideration of the present condition of the Project.

#### 3. Establishment of appropriate and feasible monitoring system

The monitoring system elaborated by the Project for TEO/ATEO to supervise the On-site training at school level has not been functioned as expected so far. In order to keep the On-site training sustainable in Myanmar, it is essential to consider continuously how to establish appropriate and feasible monitoring system among MOE in Myanmar. For reference, it is recommended as "meeting-based monitoring" that results of monitoring are reported and shared in meeting such as cluster trainer training and "school-based monitoring" that teachers monitor each other under supervision of principal.



#### 4. Confirmation of academic impact on children who receive the CCA-based education

According to the results of monitoring by the Project, it is reported that the learning attitude of children has been changing for the better such as "Children became active to learn" and "Children became not to be afraid of teachers." It is recommended that the Project tries to analyze and confirm by means of the monitoring and/or the end line survey how beneficial for children academic impact of the CCA-based education is. In addition, it is considerable that the Project tries to analyze and achieve a consensus among people concerned on how the CCA-based education contribute to improve academic ability regarded as necessary according to the curricula in Myanmar.

#### 4.2 Lessons Learned

Then the Project got the following three lessons.

##### 1. Contribution of the allocation of counterparts by the Myanmar side toward the ownership and outcomes of the Project

A number of permanent and part-time counterparts are allocated to each working group as "Pre-service," "In-service," and "Mathematics teacher's guide." Some of the counterparts have been involved since the time of MBESS, and most of the counterparts understand CCA concept sufficiently. It contributes to the implementation of activities and the achievement of outcomes that the Myanmar side has allocated the competent and sufficient counterparts to the Project in term of dissemination of CCA nationwide.

##### 2. Adoption of the style of cascade-based training appropriate for Myanmar to disseminate CCA nationwide

The Project of Phase1 adopted the style of cascade-based training consisted of two layers, however, the style eventually imposed burden on EC trainers. Therefore, the Project (of Phase2) lightened the burden imposed on EC trainers by adopting the style consisted of three layers. In addition, the Project is designed to effectively connect the cascade-based training with the on-site training within the component of "In-service training." It contributes to establish the effective and efficient mechanism for training that the Project adopted the style appropriate for Myanmar to disseminate CCA nationwide.



### 3. Mechanism to develop teacher's guide by taking account of school level

In the process for the development of teacher's guide for mathematics, the highly elaborate procedures were adopted such as drafting by the counterparts, conducting on-site verification by the counterparts, consulting between the counterparts and the Japanese experts and so on. This process contributed to develop the teacher's guide reliable and appropriate for Myanmar.



## ANNEXES

ANNEX 1: PDM (Ver. 3 revised at Mid-Term Review and Chart for  
Comparison between before and after revision of the PDM)

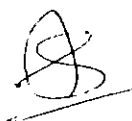
ANNEX 2: Schedule of Mid-Term Review

ANNEX 3: List of Interviewees

ANNEX 4: List of Counterparts

ANNEX 5: Summary of Training, Workshop and Seminars

ANNEX 6: Evaluation Grid



## Project Design Matrix (draft)

( Ver.3, revised 2011.2.3 )

Name of Project: Strengthening Child-Centered Approach Phase 2

Target area: Phase 1 townships 27 and phase 2 townships 40

Direct target: Staffs of BERDC, Teacher educator of 20 Education Colleges (ECs), TEO/ATEO, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships

Indirect targets: Trainees of ECs (approximately 9,535), Students of primary schools (approximately 1,472,112)

Duration: September 2008 – March 2012

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: CCA will be disseminated to among primary school teachers in Myanmar by 2015.	<ol style="list-style-type: none"> <li>In all 20 ECs, the revised EC modules introduced by the Project are continuously implemented.</li> <li>CCA training is implemented for teachers of over 90% of the primary schools in Myanmar.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Reports from EC</li> <li>EFA Assessment Report, Records of Implementation of CCA training</li> </ol>	
Project purpose: A mechanism to disseminate CCA nationwide by the efforts of the Ministry of Education is established.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Average score of CCA Understanding Test is over 80% as the result of Primary Teachers Training.</li> <li>Average score of CCA Observation Sheet (CCA practical skill in the classroom) is over 60%.</li> <li>Over 90% of EC students are approved on "Bloc teaching".</li> <li>Consensus is made among stakeholders regarding CCA Dissemination Plan.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Project monitoring reports</li> <li>Project monitoring reports</li> <li>Bloc teaching reports</li> <li>DEPT documents</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>There will be no change in CCA Dissemination Plan to complete CCA extension by 2014/15.</li> <li>The budget for CCA dissemination will be allocated.</li> <li>BERDC's functions (implementation of training, material development, and technical support to the school sites) remain in MOE.</li> </ul>
<b>Outputs</b> 1. The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is improved.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Lesson Study is introduced in 20 ECs.</li> <li>CCA concept is introduced into bloc teaching in 20 ECs.</li> <li>EC modules revised in Phase 1 is introduced and utilized in 20 ECs</li> <li>EC modules additionally revised in Phase 2 is introduced in 20 ECs</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Project progress reports</li> <li>Bloc teaching reports</li> <li>Project progress reports</li> <li>Project progress reports</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sufficient number of EC teacher educators will be allocated for the Project</li> </ul>
2. The system of In-service teacher training for nationwide CCA dissemination is established.	<ol style="list-style-type: none"> <li>In 90% of clusters in Phase 1 townships, follow-up training are implemented for primary school teachers</li> <li>In 90% of primary school teachers in Phase 2 townships receive CCA in-service teachers training</li> <li>200 qualified Master Trainers are trained for nationwide CCA dissemination.</li> <li>1,800 Cluster Trainers are trained for CCA dissemination in phase 2 townships.</li> <li>Quality of CCA In-service training package is developed.</li> <li>A plan for CCA in-service teacher training is developed.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Training Reports</li> <li>Training Reports</li> <li>Training Reports</li> <li>Training Reports</li> <li>Progress Reports, Training Reports</li> <li>DEPT documents</li> </ol>	
3. The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.	<ol style="list-style-type: none"> <li>In 80% of Phase 1 townships, On-site training activities are introduced.</li> <li>In 80% of Phase 2 townships, On-site training activities are introduced and conducted regularly.</li> <li>In 70% of Phase 1/2 townships, ATEOs are able to evaluate lessons with the lesson assessment tool developed by the Project</li> <li>70% of townships regularly submit reports on On-site training</li> <li>Educational administration personnel of Project target townships are trained on how to implement On-site training by DBEs and BERDC.</li> <li>Resource materials are provided regularly by DEPT to support implementation of On-site training at least once a year by BERDC.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Project progress reports</li> <li>Project progress reports</li> <li>Project monitoring reports</li> <li>Reports from townships , Training Reports</li> <li>Project progress reports</li> <li>Project progress reports</li> </ol>	
4. Mathematics teachers' guide and training materials for dissemination are developed.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Quality of mathematics teacher's guide is adequate.</li> <li>In 70% of Phase 2 townships, Primary Teachers Training regarding mathematics teacher's guide are held.</li> <li>Mathematics teacher's guide covers 50% of total unit for all grades.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Evaluation by MOE, EC teacher educators, primary school teachers</li> <li>Training Reports</li> <li>Development monitoring check sheet</li> </ol>	

<p><b>Activities</b></p> <p>1-1. BERDC conducts activities to improve the revised EC modules in 20 ECs</p> <p>1-2. BERDC monitors implementation of the revised EC modules and its impacts</p> <p>1-3. The Project provides training for EC teacher educators to carry out learner-centered lessons in ECs</p> <p>1-4. Using the results of the monitoring (1-2), the Project carries and implements activities that ensure EC trainers to be equipped with sufficient knowledge and skills of CCA</p> <p>1-5. The project revises the additional modules of EC textbooks based on the revised content of in-service CCA training in phase 2.</p> <p>3-1. The Project develops a tool to assess primary school lessons.</p> <p>3-2. The Project implements follow-up training for Phase 1 townships to improve basic teaching techniques and to introduce CCA assessment</p> <p>3-3. The Project develops a training package which combines contents of Phase 1 training and the follow-up training</p> <p>3-4. BERDC conducts CCA master trainer training for EC teacher educators</p> <p>3-5. In Phase 2 townships, EC teacher educators (master trainers) conduct cluster (township) level training for cluster trainers</p> <p>3-6. In Phase 2 townships, cluster trainers conduct CCA Primary Teacher Training</p> <p>3-7. TFO/AFOs manage and monitor the CCA Primary Teacher Training at the cluster level.</p> <p>3-8. The Project makes suggestions for continuous in-service teacher training system for CCA dissemination.</p> <p>3-1. BERDC implements supervisor training in collaboration with SEODEO</p> <p>3-2. The Project develops a monitoring mechanism for adequate implementation of On-site trainings.</p> <p>3-3. BERDC regularly develops and distributes materials to be utilized in On-site training</p> <p>3-4. CCA focused schools are established and utilized for the project activities to show good practices of CCA.</p> <p>4-1 The Project develops mathematics teaching methodology in line with CCA</p> <p>4-2 The Project develops lesson plans based on pilot lessons in collaboration with the neighboring primary schools.</p> <p>4-3 The Project prints mathematics teacher's guide for dissemination</p> <p>4-4 The Project develops training materials for dissemination of mathematics teacher's guide.</p> <p>4-5 BERDC conducts master trainer training for EC teacher educators regarding mathematics teacher's guide and mathematics teaching methodology in line with CCA</p> <p>4-6 The Project develops materials to be utilized in cluster meetings in Phase 1/2 townships regarding mathematics teacher's guide and mathematics teaching methodology in line with CCA</p>	<p><b>Inputs</b></p> <p>Japanese side:</p> <p>&lt;Experts (Maximum 5 for long-term experts)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Team Leader/CCA extension plan</li> <li>CCA Training/Monitoring</li> <li>EC Capacity Building</li> <li>Mathematics Teacher's Guide Development</li> <li>EC Monitoring</li> <li>Short-term experts (if necessary)</li> </ul> <p>&lt;Counterpart Training in Japan&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Mathematics Teacher Educator</li> </ul> <p>&lt;Activity costs&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The cost for printing and dissemination of teacher's guides to Phase 1 and 2 townships</li> <li>Transportation cost and accommodation for BERDC counterpart personnel</li> <li>Accommodation and Daily allowance during staying in Yangon for BERDC counterpart participated from DBE2</li> <li>Printing and dissemination cost for training materials for Central and Local training (including supervisor training if necessary)</li> <li>Support for lunch allowance for Central training and Local training (including supervisor training if necessary)</li> </ul> <p>&lt;Materials&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Purchase and delivery of reference books for BERDC and ECs if necessary</li> </ul> <p>Myanmar side:</p> <p>&lt;Counterpart personnel&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Project manager 1 (Full time)</li> <li>Capacity Building of EC/Development of CCA Training System: 14 (Full-time 7, Part-time: 7)</li> <li>Development of Mathematics Teacher's Guide: 5 (Full-time:3, Part-time: 2)</li> <li>EC focal person: 1 each from 20 ECs: 20 (part-time)</li> <li>Supervisor Training: 1 each from DBE 1 and 3: 2 (Part time)</li> </ul> <p>&lt;Office Space&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Project Office</li> <li>Running expenses for the Project office (ex. Electricity, water and telephone charges)</li> </ul> <p>&lt;Activity Expenses&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Printing and dissemination of the revised EC modules and trainee's books</li> <li>Travel allowance, accommodation and daily allowance for EC teacher educators who attended the Central level training</li> <li>Travel allowance, accommodation and daily allowance for participants who attend the Central or Local level training according to the government regulation including supervisor training</li> <li>Travel allowance, accommodation, and daily allowance for those who attend monitoring activities to the cluster meeting and/or primary schools, if necessary</li> </ul>	<p><b>Pre-Condition</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Education policies related to CCA will not change.</li> <li>Counterparts will be assigned as agreed by the both sides.</li> <li>The Japanese experts will be dispatched as agreed by the both sides.</li> </ul>
---	---	--

Chart for comparison between before and after revision of the PDM

before revision	after revision	reason for revision
<b>Overall Goal</b>		
<b>Narrative Summary:</b> CCA will be disseminated to <u>90% of primary schools</u> in Myanmar by 2015.	<b>Narrative Summary:</b> CCA will be disseminated to <u>among primary school teachers</u> in Myanmar by 2015.	To include the activities for pre-service in the target scope of the overall goal.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. <u>CCA In-service teacher training</u> is implemented for teachers of over 90% of the primary schools in Myanmar.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. <u>CCA training</u> is implemented for teachers of over 90% of the primary schools in Myanmar.	To integrate in-service and on-site training into CCA training.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 3. On-site training is introduced and become functional in over 90% of the primary schools in Myanmar.	Eliminated	To incorporate this indicator into the above one.
<b>Means of Verification:</b> 2. <u>EFA National Action Plan</u> . Record of Implementation of CCA training 3. <u>Report of TEO monitoring</u>	<b>Means of Verification:</b> 2. <u>EFA Assessment Report</u> . Record of Implementation of CCA training	To integrate three means of verification into two.
<b>Important Assumptions:</b> CCA dissemination plan by the government of Myanmar will not change	Eliminated	To be the important assumption for achievement of the project purpose.
<b>Project Purpose</b>		
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 1. In Phase 1 townships, 70% of primary school teachers improve basic teaching techniques in line with CCA concept.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 1. Average score of CCA Understanding Test is over 80% as the result of Primary Teachers Training.	To be the indicator for grasping the level of quality-improvement related to CCA.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. In phase 2 townships, 70% of primary school teachers acquire basic knowledge and skills related to CCA.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. Average score of CCA Observation Sheet (CCA practical skill in the classroom) is over 60%.	To be the indicator for grasping the level of quality-improvement related to CCA.
no description	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 3. Over 90% of EC students are approved on "Bloc teaching".	To set the indicator related to pre-service training for achievement of the project purpose.

130

<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 3. Consensus is made among stakeholders regarding a <u>CCA dissemination plan</u> .	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 4. Consensus is made among stakeholders regarding <u>CCA Dissemination Plan</u> .	To be the specific one.
no description	<b>Means of Verification:</b> 3. Bloc teaching reports	added according to the indicator newly added
<b>Important Assumptions:</b> There will be no change in <u>DEPTs plan</u> to complete CCA extension by 2014.	<b>Important Assumptions:</b> There will be no change in <u>CCA Dissemination Plan</u> to complete CCA extension by 2014/15.	To uniform the name of plan as familiarized one.
<b>Important Assumptions:</b> The budget for CCA dissemination is <u>allocated</u> .	<b>important Assumptions:</b> The budget for CCA dissemination <u>will be allocated</u> .	To be prospective.
<b>Outputs</b>		
<b>Narrative Summary:</b> The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is <u>strengthened</u> .	<b>Narrative Summary:</b> The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is <u>improved</u> .	To make the meaning clear.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 1. In 20 ECs, EC teacher educators conduct lessons using the revised EC modules.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 1. Lesson study is introduced in 20 ECs.	To set the appropriate indicator according to the revised narrative summary.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. Activities to improve EC lessons are conducted among teacher educators.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 2. CCA concept is introduced into bloc teaching in 20 ECs.	To set the appropriate indicator according to the revised narrative summary.
<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 3. 50% of graduates from 20 ECs have basic understanding of CCA concept.	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 3. EC modules revised in Phase 1 is introduced and utilized in 20ECs	To set the appropriate indicator according to the revised narrative summary
no description	<b>Objectively Verifiable Indicators:</b> 4. EC modules additionally revised in Phase 2 is introduced in 20ECs	To set the appropriate indicator according to the revised narrative summary
<b>Important Assumptions:</b> CCA dissemination plan by the government of Myanmar will not change.	eliminated	To be the important assumption for achievement of the project purpose.
<b>Pre-Condition</b>		
CCA dissemination plan by the government of Myanmar will not change.	eliminated	To be the important assumption for achievement of the project purpose.
no description	Education policies related to CCA will not change.	added

55



## Schedule of Mid-term Review

Date	Time	Activities			Remarks
		1) Mr. Norihiro NISHIKATA 2) Mr. Kazuyuki KAKUDA	3) Mr. Hideo MIYAMOTO 4) Mr. Hajime MATSUOKA	5) Ms. Sawa HASEGAWA	
Jan. 16 (Sun)	18:40 hr.			-Tokyo ~ Yangon	Yangon
Jan. 17 (Mon)	Whole day			- Meeting with JICA office - Discussion with experts	Yangon
Jan. 18 (Tue)	Whole day			- Discussion with C/P of WG-1, WG-2 & WG-3	Yangon
Jan. 19 (Wed)	Whole day				
Jan. 20 (Thu)	10:00 hr. 15:00 hr			- Courtesy Call on DG of DBE-3 and focal persons - Courtesy Call on DG of DBE-1 and focal persons - Discussion with Project Manager	Yangon
Jan. 21 (Fri)	Whole day			- Discussion with Project Manager - Discussion with C/Ps of WG-2 and WG-3	
Jan. 22 & 23 (Sat. & Sun.)		(Sat.) 9:30 hr.		- Courtesy Call to DG of DEPT - Document Compilation	Yangon
Jan. 24 (Mon)	18:40 hr			- Discussion with C/Ps of WG-2 and WG-3 - Document Compilation	Yangon
Jan. 25 (Tue)	09:00~10:30 11:00~15:30 15:30~18:00			- Arrival Meeting at JICA Office - Observation on In-service component (the cluster meeting in Hmawbi Township) and interview with C/Ps - Discussion with Experts at BERDC	Yangon
Jan. 26 (Wed)	09:30~12:00 1:30 hr.			- Observation on activities of Math Teacher's Guide Field Verification school (Basic Education Primary School No.1 Bahan) - Observation on activities of Pre-service component at Thingangyun Education College and interview with C/Ps	Yangon
Jan. 27 (Thu)	09:00 11:00 13:30 hr. 15:00 hr.			- Observation at a regular primary school (BEPS No.14, North Dagon Township) - Discussion with Experts of Math Teacher's Guide Development - Discussion with Project Manager at BERDC - Meeting with UNICEF	Yangon
Jan. 28 (Fri)	9:30 12:30~14:30			- Internal Meeting at JICA Office - Observation on activities of CCA focused school	Yangon

Date	Time	Activities	Remarks
	15:30~18:30	(Yankin Education College Practicing Middle School) and interview with C/P - Discussion with Experts at JICA Myanmar Office	
Jan. 29 & 30 (Sat. & Sun.)		- Document Compilation	Yangon
Jan.31 (Mon)		- Internal Meeting at JICA office	Yangon
Feb. 01 (Tue)		- Discussion for M/M with C/P - Internal Meeting at JICA office	Yangon
Feb. 02 (Wed)		- Document Compilation - Internal Meeting at JICA office	Yangon
Feb. 03 (Thu)	9:30	- Meeting with DG of DEPT, MOE on the Result of Mid-term Review - Signing of Minutes of Meeting (M/M) - Discussion with MOE on future cooperation	Yangon
Feb. 04 (Fri)	19:40 hr	- Report back meeting at JICA Myanmar Office - Report back meeting at EoJ - Leave for BKK (Mr. Norihiro NISHIKATA & Mr. Kazuyuki KAKUDA)	Yangon

DG : Director General  
 DEPT : Department of Educational Planning and Training  
 MOE : Ministry of Education  
 DBE : Department of Basic Education  
 C/P : Counterpart  
 EOJ : Embassy of Japan




ANNEX 3

## List of Interviewees

### Japanese Experts

Mr. Takujiro Ito (Team leader / CCA Extension Plan)  
Mr. Chiko Yamaoka (CCA Training / Monitoring)  
Mr. Isamu Imahori (Mathematics Teacher's Guide Development)  
Mr. Takashi Sorna (Short-term Expert for CCA Training / Monitoring)  
Mr. Takashi Itoh (Short-term Expert for Mathematics Teacher's Guide Development)

### DEPT

U Bo Win (Director General of DEPT)

### BERDC Staff

Daw Cho Cho Oo (Project Manager)

<Working Group 1 (Pre-service Teacher Education)>

Daw Aye Aye Myint (full-time)  
Daw Nant Marlar Than (full-time)  
Daw Lwe Lwe Khaing (full-time)

<Working Group 2 (In-service Teacher Training)>


Daw Joanna (full-time)  
Daw Htay Htay Han (full-time)  
Daw Myint Myint Than (full-time)  
Daw Sandar Wai (full-time: Hlegu EC)

<Working Group 3 (Mathematics Teacher's Guide Development)>

Daw Kyi Kyi Swe (full-time)

### DBE focal persons

Daw Saw Shwe Bu (part-time: DBE 1)  
Daw Kyu Kyu Shwe (part-time: DBE 3)  
Daw Tin Aye Saw (part-time DBE 3)  
Daw New New Aye (part-time: DBE 3)  
Daw Yu Yu Tin (part-time: DBE 3)



List of Counterparts

ANNEX 4

Working Group/ Expert	CP Assigned in R/D	Actual situation (as of Jan. 2011)
<b>Management</b> Takujiro Ito, Team leader/CCA Extension Plan	U Bo Win (Director General of DEPT) U Tun Hla (Deputy Director General of DEPT) Daw Cho Cho Oo (Project Manager)	U Bo Win (Director General of DEPT) U Tun Hla (Deputy Director General of DEPT) Daw Cho Cho Oo (Project Manager)
<b>Working Group 1</b> Kenichi Kubota (EC Capacity Building)  Makiko Kishi (EC Monitoring/ Coordinator)  Takujiro Ito (EC textbook, modules revision)	Daw Aye Aye Cho (full-time) U Aung Myat Soe (full-time) Daw Win Theingi Kyaw (full-time) Daw Aye Aye Myint (full-time) Daw Myint Myint Thu (part-time: Yankin EC) Daw Nant Marlar Than (part-time: Thingungyun EC) Daw Lwe Lwe Khaing (part-time: Thingungyun EC) Daw Nilar (part-time: Yankin EC)	Daw Aye Aye Myint (full-time) Daw Nant Marlar Than (full-time) Daw Lwe Lwe Khaing (full-time) Daw Aye Aye Cho (part-time: Yankin EC) U Aung Myat Soe (part-time: Myaungmya EC) Daw Win Theingi Kyaw (part-time: Pyay EC)
<b>Working Group 2</b> Takujiro Ito (Team Leader/ CCA Extension Plan)  Chiko Yamaoka (CCA Training/ Monitoring)  Takashi Soma (Short-term Expert for CCA Training/Monitoring)  Daw Khin Sein Win (CCA Advisor)	[In-service teacher training team] Daw Joanna (full-time) Daw Htay Htay Han (full-time) Daw Myint Myint Than (full-time) Daw Htar Htar Wai (part-time: Thingungyun EC) Daw Sandar Wai (part-time: Thingungyun EC) Daw San Khin (part-time: Hlegu EC)  [DBE focal persons] Daw Saw Shwe Bu (part-time : DBE 1) U Htun Htun (part-time: DBE 2) Daw Kyu Kyu Swe (part-time: DBE 3)	[In-service teacher training team] Daw Joanna (full-time) Daw Htay Htay Han (full-time) Daw Myint Myint Than (full-time) Daw Sandar Wai (full-time: Hlegu EC)  [DBE focal persons] Daw Saw Shwe Bu (part-time: DBE 1) Daw Yin Yin Myint (part-time: DBE 1) U Win Myint (part-time: DBE 2) Daw Yu Yu Tin (part-time: DBE 3) Daw Tin Aye Saw (part-time: DBE 3) Daw Nwe Nwe Aye (part-time: DBE 3)

Working Group/ Expert	CP Assigned in R/D	Actual situation (as of Jan. 2011)
	[CCA local instructor] 20 persons in total, one from each EC (running and managing training at each EC)	[CCA local instructor] 20 persons in total, one from each EC (running and managing training at each EC)
<b>Working Group 3</b> Isamu Imahori (Mathematics Teacher's Guide Development)  Takashi Itoh (Short-term Expert for Mathematics Teacher's Guide Development)  Daw Khin Swe Tint (MTG Development Advisor)	[Mathematics teacher's guide development team] Daw Kyi Kyi Swe (full-time) U Soe Naing (full-time) Daw Khin Htay Myint (full-time) U Kyaw Shwe (part-time: Yankin EC) Daw Aye Aye Than (part-time: Yankin EC)	[Mathematics teacher's guide development team] Daw Kyi Kyi Swe (full-time: C2) U Soe Naing (full-time: G1, G5) Daw Aye Nyunt (full-time: G3, G4) Daw Aye Aye Than (part-time: Thingungyun EC) Daw Myo Sandar Aye (part-time: BEPS - 9, Sanchaung) Daw Aye Aye Myint (part-time: Curriculum, DEPT) Daw Sein Sein (Demonstrator) Daw Tin Tin Moore (Demonstrator) Daw Myint Myint Maw (Demonstrator) Daw Khin Khin Htay (Demonstrator) Daw Hlaing Thet Htar (Demonstrator) Cooperation from one EC administrator and four primary-school teachers for the validation of the G1-3 draft TGs.

10

## Summary of Training, Workshop and Seminar

ANNEX 5

Sr.	WS/Training Name	No. of Participants	Position	Contents	Date	Remark
Pre-service Component						
1	WS for revised EC module	42	A/L, Tutor, AD	Revised EC module	3-4 Feb, 2009	Participants from ECs in Upper Myanmar
2	WS on Lesson Study	18	A/L & Tutor	Focus on Lesson Study in EC	12-14 Feb, 2009	Participants from ECs (YEC,TEC,HEC)
3	WS on Lesson Study	27	A/L & Tutor	Focus on Lesson Study in EC	4-6 Mar, 2009	Participants from ECs (YEC and TEC)
4	WS for EC Administrator	11	Principal, Vice Principal & Head of Dept	Focus on Lesson Study in EC	9 Mar, 2009	Participants from ECs (YEC,TEC,HEC)
5	WS on Bloc Teaching	28	V-Principal,HD, A/L,ATEO, P-Head	Bloc Teaching	28-29 May, 2009	Participants from Ecs (YEC, TEC, HEC), Hmawbi Township
6	WS on Bloc Teaching	63	A/L, Tutor, HD	Bloc Teaching	17 Aug, 2009	Participants from ECs in Lower Myanmar
7	WS on Lesson Study	63	A/L, Tutor, HD	Focus on Lesson Study in EC	18-20 Aug, 2009	Participants from ECs in Lower Myanmar
8	WS for administrators	8	Principal, Vice Principal	Focus on Lesson Study in EC	24 Aug, 2009	Participants from ECs in Upper Myanmar
9	WS on Bloc Teaching	56	A/L, Tutor, HD	Bloc Teaching	25 Aug, 2009	Participants from ECs in Upper Myanmar
10	WS on Lesson Study	56	A/L, Tutor, HD	Focus on Lesson Study in EC	26-28 Aug, 2009	Participants from ECs in Upper Myanmar
11	Constructivism ID WS	22	Full & Part time C/Ps, Office Staff	Instructional Design	4 Sep, 2009	
12	WS on Thinking Tools	22	Full & Part time C/Ps, Office Staff	Thinking Tools	9 Sep, 2009	
13	WS for Strengthening LCA & LS	42	EC teachers	Strengthening LCA & LS	6-8 Jan, 2010	
14	WS for Strengthening LCA & LS	79	EC teachers	Strengthening LCA & LS	21-23 Jun, 2010	Participants from ECs in Upper Myanmar
15	WS for Strengthening LCA & LS	63	EC teachers	Strengthening LCA & LS	30 Aug-1 Sep, 2010	Participants from ECs in Lower Myanmar

20

100

In-service Component						
1	WS for CCA Tools Development	7	DEB Focal Person	CCA Tools Development	9-13 Feb, 2009	
		6	Full time and Part time staff			
		3	Experts			
		1	Advisor			
2	SVT	1	Asst. Director	CCA training for Supervisor	18-21 Feb, 2009	Participants from DBE HQ and 3 pilot townships of year 2009.
		7	Staff Officer		28 Feb-01 Mar, 2009	
		3	EC teacher			
		6	TEO/ATEO			
		9	Deputy Staff Officer			
3	MTT	16	EC teachers	CCA training for Master Trainer	11-16 Mar, 2009	Participants from newly assigned C/Ps and 3 pilot ECs of year 2009.
		9	Full time and Part time staff			
4	CTT (Trainers)	19	EC teachers and ATEO	CCA training for Cluster trainer	29 Apr-9 May, 2009	3 Pilot Townships
	CTT (Trainees)	146	Head, PAT		29 Apr-9 May, 2009	3 Pilot Townships
5	PTT (Trainers)	127	Head, PAT	CCA training for Primary Teachers	11-22 May, 2009	3 Pilot Townships
	PTT (Trainees)	1250	Head, JAT, PAT and GW		11-22 May, 2009	3 Pilot Townships
6	SVT	20	TEO	CCA training for Supervisor	19-21 Jan, 2010	Participants from DBE HQ, SEO/DEO office and 20 target townships of year 2010.
		4	Staff Officer (DBE)			
		4	Deputy Staff Officer (DBE)			
		11	AIS from DEO/SEO office			
7	MTT (Yangon)	39	EC teachers	CCA training for Master Trainer	1-11 Feb, 2010	Participants from Lower Myanmar (for 12 townships)
		14	ATEO			
		15	GFS trainers (UNICEF)			
	MTT (Mandalay)	42	EC teachers	CCA training for Master Trainer	15-26 Feb, 2010	Participants from Upper Myanmar (for 8 townships)
		15	ATEO			
10	CFS trainers (UNICEF)					
8	CTT (Trainers)	79	EC teachers	CCA training for Cluster trainer	26 Apr-7 May, 2010	20 Townships
		29	ATEO			
	CTT (Trainees)	1250	Head, PAT			
9	PTT (Trainers)	1001	Head, PAT	CCA training for Primary Teachers	14-23 May & 5-16	1st & 2nd batch
	PTT (Trainees)	10395	Head, PAT		14-23 May, 2010	1st batch
	PTT (Trainees)	3775	Head, JAT, PAT and GW		5-16 July, 2010	2nd batch

21

10	Constructivism ID WS	53	IOE, DEPT, DBE, EC, PAT, Full & Part time CPs, Experts	Instructional Design	18 Aug. 2010	
11	Constructivism ID WS	53	IOE, DEPT, DBE, EC, PAT, Full & Part time CPs, Experts	Instructional Design	28 Dec. 2010	
12	SVT (Mandalay)	12	TFO	CCA training for Supervisor	19-21 Jan, 2011	Participants from Upper Myanmar (for 8 townships) including newly assigned TEOs in previous target area
		40	AIS from DEO/SEO office			
		5	Officers from DBE-2			
13	SVT (Yangon)	14	TEO	CCA training for Supervisor	24-26 Jan, 2011	Participants from Lower Myanmar (for 9 townships) including newly assigned TEOs in previous target area
		40	AIS from DEO/SEO office			
		5	TEO from CFS (UNICEF) area			
		10	Officers from DBE-1 & 3			
<b>Mathematics Teachers Guide Development Component</b>						
1	WS for Completion of Pilot Mathematics Teacher's Guide	26	DDG, JICA HO, P-Head, Full & Part time CPs, Experts	Completion of Pilot Mathematics Teacher's Guide	02-06 Mar, 2009	
2	Seminar on Lesson Format in Mathematics	17	Full time CPs, Experts, PATs, Office staff	Lesson Format in Mathematics	28 Jul, 2009	
3	Presentation on Mathematics Teacher's Guide	20	Experts, Full time CPs, PAT, Tutor, Office staff	Mathematics Teacher's Guide	23 Sep, 2009	
4	WS on 2nd Year FV on Mathematics Teacher's Guide	34	Experts, Full & Part time CPs, Principal, PAT, JAT & Office Staff	Field Verification on Mathematics Teacher's Guide	24 May, 2010	
5	WS on Mathematics Teachers' Guides Component	31	Experts, Full & Part time CPs, PAT, JAT & Office Staff	Mathematics Teacher's Guide Component	25 Aug, 2010	



ANNEX 6

Evaluation Grid

Notes: PM means Project Manager and APM means Assistant Project Manager.

Verification of Performance

Survey Items	Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
	Sub-Survey Items		
Inputs	Are the following inputs from Japanese side provided as planned? - Assignment of Japanese experts (maximum 5 for long-term experts) - Counterpart training in Japan - Bearing of activity costs - Provision of equipment and materials		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Are the following inputs from Myanmar side provided as planned? - Assignment of counterpart personnel - Provision of office space - Allocation of activity expenses		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
Achievement of Outputs	Has the Output 1 been achieved? What is the present result of indicators? Output 1: The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is strengthened.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Has the Output 2 been achieved? What is the present result of indicators? Output 2: The system of In-service teacher training for nationwide CCA dissemination is established.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Has the Output 3 been achieved? What is the present result of indicators? Output 3: The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Has the Output 4 been achieved? What is the present result of indicators? Output 4: Mathematics teachers' guide and training materials for dissemination are developed.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
Prospect for achieving project purpose	Is there any prospect for achieving the project purpose by the end of the project? What is the present result of indicators? Project purpose: A mechanism to disseminate CCA nationwide by the efforts of the Ministry of Education is established.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>

Verification of Implementation Process

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Implementation of activities	Have the activities on Output 1 (Pre-service teacher education) been implemented as planned? Has the modification and improvement been made after the first mid-term review?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• CP in charge interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Have the activities on Output 2 (In-service teacher training) been implemented as planned? Has the modification and improvement been made after the first mid-term review?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• CP in charge interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Have the activities on Output 3 (On-site training) been implemented as planned? Has the modification and improvement been made after the first mid-term review?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
	Have the activities on Output 4 (development of mathematics teachers' guide and training materials) been implemented as planned? Has the modification and improvement been made after the first mid-term review?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• CP in charge interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
Project management system	Are there no problems in the decision-making process and management system of experts? Are the cooperation and coordination between each component made appropriately?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> </ul>
	Are there no problems in the communication between Japanese experts and Myanmar counterparts?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Is the monitoring system for the project managed appropriately? How the project progress is identified?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Are there no problems in the communication between Japanese experts and JICA Myanmar office and HQ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> </ul>
Degree of participation of stakeholders	Has the degree of participation of counterparts in the project been high? Has the recognition of the project by target groups been high?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>
	Are the appropriate post/personnel in MOE allocated as the counterparts? Is there any organization/department necessary to cooperate in implementing the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
Other problems in the process of implementation	Are there any other problems during the process of implementing the project? If any, what is the cause?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>

Evaluation Criteria: Relevance

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Consistency with Myanmar's development policy	After the project started, have there been no changes in Myanmar's national educational policy? (Is CCA still supported by Myanmar's educational policy?)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 30 Year Long Term Plan: Basic Education Sector</li> <li>• EFA National Action Plan</li> <li>• DEPT interview</li> </ul>
Consistency with Japan's ODA policy	After the project started, have there been no changes in Japan's ODA policy and JICA's implementation plan towards Myanmar?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Japan's ODA policy to Myanmar</li> <li>• JICA's implementation plan to Myanmar</li> </ul>
Consistency with Myanmar's development needs	Does the project meet the target groups' needs? Target groups: Staffs of BERDC, Teacher educator of 20 ECs, TEO/ATEO, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>
Project approach/design	Is the project suitable as a strategy for producing an effect to the development issues of the education sector in Myanmar?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> </ul>
	Are the three approaches (Pre-service teacher education, In-service teacher training and On-site training) for CCA dissemination implemented by the project appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> </ul>
Selection of target area	Is the selection of pilot sites of phase 2 (40 townships) appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
Japan's technical advantage	Does Japan have a technical advantage in strengthening and disseminating CCA?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> </ul>
Pre-conditions	Are the following pre-conditions met? <ul style="list-style-type: none"> <li>- CCA dissemination plan by the government of Myanmar will not change</li> <li>- Counterparts will be assigned as agreed by the both sides</li> <li>- The Japanese experts will be dispatched as agreed by the both sides</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>

Evaluation Criteria: Effectiveness

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Achievement of outputs	Refer to the table of "Verification of Performance"	
Prospect for achieving project purpose	Refer to the table of "Verification of Performance"	
Contribution of outputs to project purpose	What is the degree of contribution of each output to the achievement of project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Key assumptions	Are the following important assumptions for achieving project purpose been realized? - CCA dissemination plan by the government of Myanmar will not change - Sufficient number of EC teacher educators will be allocated for the project	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
Other contribution	Are there any contributing factors for achieving the outputs and project purpose except the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>
	Are there any synergy effects between the project and other donors and NGOs' projects?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
Factors that inhibit the achievement	Are there any negative factors that inhibit the achievement of outputs and project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>

#### Evaluation Criteria: Efficiency

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Inputs	Refer to the table of "Verification of Performance"	
Achievement of outputs	Refer to the table of "Verification of Performance"	
Quality, quantity and timing of inputs seen from the achieved outputs	Are the number of experts dispatched, their fields of expertise, and timing and period of dispatch appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Are the head count, placement and skills of the counterparts appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Are the number of trainees, their fields, training contents, training period and timing of the counterpart training in Japan appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Are the type, quantity and timing of the installation of equipment appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
	Are the project budget and local costs appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> </ul>
	Are the local costs from counterparts appropriate? If not, what is the problem?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> </ul>
Factors that inhibit the efficiency of the project	Are there any factors that inhibit the smooth implementation of the project? If any, what is the cause?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge interview</li> </ul>

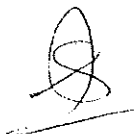
Evaluation Criteria: Impact

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Prospect for achieving overall goal	Is there any prospect for achieving the overall goal after the project? What is the present result of indicators? Overall goal: CCA will be disseminated to 90% of primary schools in Myanmar by 2015.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• DEPT interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• Progress Report/Term Report</li> </ul>
Other impact	Are there any project impacts on policies and systems related to the education sector in Myanmar?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DEPT interview</li> <li>• DBE interview</li> </ul>
	Are there any positive impacts that are not planned at the time of planning and have been produced by the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge Interview</li> </ul>
	Are there any negative impacts that are not planned at the time of planning and have been brought about by the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge Interview</li> </ul>

Evaluation Criteria: Sustainability

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
Sustainability of policy and institution	Will the education policy on CCA dissemination in Myanmar be carried on in future?	• DEPT interview
	Has the development of institutions on CCA dissemination nationwide been made? Or will be made in future? Is there any practical plan for the dissemination?	• DEPT interview
Sustainability of organization	Is there any possibility for changing the present system of MOE after the project?	• DEPT interview
	Is there any prospect for allocating the necessary personnel for CCA dissemination nationwide after the project?	• DEPT interview
	Will BERDC be approved as the formal department of MOE? Will the function of BERDC be strengthened in future?	• DEPT interview
	Will the vacant positions of EC teachers be filled in future?	• DEPT interview
	Will the concept of CCA be introduced in the change of textbooks used in EC?	• DEPT interview
	Will the equipment provided be managed and maintained appropriately after the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> </ul>
Sustainability of skills	Do the counterparts have enough management capacity to implement CCA dissemination nationwide after the project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> <li>• CP in charge Interview</li> </ul>
	Are any efforts made for the quality improvement of CCA implementation? Has the modification and improvement been made after the first mid-term review?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Experts interview</li> <li>• PM/APM interview</li> <li>• DBE interview</li> </ul>

Evaluation Questions		Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items	
		• CP in charge Interview
Sustainability of finance	Will MOE be able to allocate the budget for CCA dissemination nationwide (implementing In-service teacher training and printing materials) after the project?	• DEPT interview
Future development	Is there any possibility for the cooperation between the project and UNICEF's CFS project in future?	• UNICEF interview
	What is the necessary thing for the sustainability of the project other than the above things?	• Experts interview • PM/APM interview • DEPT interview • DBE interview • CP in charge Interview




## 「ミャンマー連邦共和国児童中心型教育強化プロジェクトフェーズⅡ」中間レビュー調査 評価グリッド結果

## 実績の検証

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
インプット の実施状況	日本側からの投入（専門家派遣、研修員受入、機材供与、ローカルコスト負担）は計画どおりに行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね計画どおり（報告書本文の投入実績表を参照）。</li> <li>・ 運営指導調査のあと、モデル校での活動が追加されたため、CCA 研修/モニタリングの専門家の MIM が 1.6MM 追加された。</li> </ul>
	ミャンマー側からの投入（カウンターパート配置、施設提供、ローカルコスト負担）は計画どおりに行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね計画どおり（報告書本文の投入実績表を参照）。</li> <li>・ C/P 配置はプロジェクト実施途中で欠員がたびたび生じているため、当初の計画の数からは減っている。補充された C/P もいれば、欠員状態のままの C/P もいる。パートタイムの C/P にフルに近い状態で参加してもらうなど、可能な要員で対応している。</li> </ul>
アウトプットの産出状況（達成度）	<p>成果 1 の達成状況はどうか。 指標の現時点での結果はどうか。</p> <p>成果 1: CCA 全国普及のための教員養成体制が強化される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各指標の達成状況については、報告書本文の指標結果表を参照。</li> <li>・ 各 EC によって進捗・達成状況は変わらないが、個々の EC 教官のレベルでみると、学生への LCA が実施されているか、LCA に対する態度などは各教官によって異なる。</li> <li>・ EC 教官のうち、教授法を教える EC 教官（教師経験の豊富なベテランが多い）の CCA 理解に比べ、各教科を担当する EC 教官（教師経験があまりなく比較的若い）の CCA 理解が弱い。</li> <li>・ プロジェクト開始後、すべての EC で多数の教官が新規に採用され、教官の欠員問題はなくなったが、新規教官が多数増えたことにより、研修実施済みの EC でもまだ研修を受けていない教官がいる。教官には大抵、高校の教員や大学院修了生になることが多いため、新規に採用される教官はほとんど CCA のことを知らない（今後も新規教官に対する CCA 研修は続ける必要がある）。</li> <li>・ 新規教官にとって改訂教科書を使うのはまだ難しいようである。</li> <li>・ 教官の EC 間での異動はそれほど多くはないが、同じ EC 内での部署異動はある。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	<p>成果 2 の達成状況はどうか。 指標の現時点での結果はどうか。 成果 2: CCA 全国普及のための現職教員研修体制が確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各指標の達成状況については、報告書本文の指標結果表を参照。</li> <li>・ 研修は計画どおりに実施されており、指標はほとんど達成される見込みだが、まだ研修体制が「確立する」までには至っていない。プロジェクト終了までに確立させるにはあと何をすべきか等を精査している状況。</li> <li>・ マスタートレーナーとなる EC 教官のレベルにバラつきがある。年齢の若い EC 教官は経験が浅いため、やる気はあるがうまく実施できていない。</li> </ul>
	<p>成果 3 の達成状況はどうか。 指標の現時点での結果はどうか。 成果 3: 自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各指標の達成状況については、報告書本文の指標結果表を参照。</li> <li>・ データは未集計であるが、指標 3 と指標 4 の達成状況は低いと予想され、何らかの工夫・措置をする必要がある。</li> <li>・ TEO/ATEO による CCA のモニタリングについては、既存のモニタリング・システム（TEO/ATEO が各学校を回り、3 カ月ごとに DBE にモニタリング報告書を提出している）に CCA の報告を取り込むつもりであったが、報告書の提出率が悪い（ヤンゴン管区はそれほど悪くないが、南部地域は半分くらい）など、そのシステム自体があまり徹底されていなかったため、予想外のことであった。CCA 用に新たにモニタリング・システムをつくるのは時間・労力がかかるため、既存のシステムを改善しつつ、やり方を工夫する必要がある。モニタリング・シートの改善、予算措置、TEO/ATEO の CD の 3 点セットで取り組む。</li> <li>・ TEO/ATEO が各学校での CCA の実践状況をモニタリングするのは地理的条件（学校の数が多すぎて訪問しきれない、学校の位置が遠すぎて定期的に行けない）や CCA に対する理解度（CCA の授業がどういうものか分からないため、チェックできない）、本来の業務との兼務（特に TEO はほかの仕事が多く、もともと中・高校を主に担当しているため時間が取れない）の点で難しい場合もあるため、各学校・クラスターからの報告をメインとしつつ、スーパーバイザー研修（SVT）で TEO に対する研修を行い、マスタートレーナー研修（MTT）で ATEO に対する研修を行うことで補完する形を取っている。</li> <li>・ CCA に対する意義をもち、やる気のある TEO/ATEO もいるが、ほとんど関心のない TEO/ATEO もいる。制度の問題というよりは個人の問題。</li> <li>・ クラスターミーティング・学校ミーティング自体はそれぞれ多かれ少なかれ開かれている</li> </ul>



評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
			<p>が、そこで自主研修活動（授業研究、CCA 授業の予習・復習、教材の紹介等）が行われているかどうかは各クラスター・学校でまちまち。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校長の CCA に対する関心・理解度も個人によって異なる。校長が指導書を学校の戸棚にしまって鍵をかけており、教員が使用できない、という例もあった。モニタリングでそのような事態が発見できれば改善するよう指導している。</li> <li>・ 小学校教員は研修を受けることによってある程度 CCA を理解することはできているが、実際に CCA に沿った授業を実施するかは別の話となる。理解が浅いために実践できていない教員もいるが、CCA の授業は準備や予習が多くなり、教員にとって手間がかかることになるため、理解はできていてもやらないという状況もある。</li> <li>・ 加えて、教員が CCA を実践することによって得られるメリットがはっきりしないため（教員自身の評価や昇進などに結び付かない）、教員に CCA を実践する意欲をもたせることが難しい。また、今までと違ったやり方を行うという「変化」に対する前向きな姿勢が弱い傾向もある。</li> <li>・ CCA を実践しようという意欲のある教師も確実にいる。これらの教師の意欲を支えているのは、実践したときの反応の良さ（子どもの変化がみえる、保護者から好評を得る等）があること。</li> <li>・ （データの裏づけがあるわけではないが）一般に、TEO/ATEO によるサポートが熱心なタウンシップでは、学校での CCA 実践も良いという傾向がある。</li> <li>・ DBE がきちんとモニタリングを行っている TEO/ATEO を褒めるなど、DBE から TEO/ATEO に対してやる気・意欲を高めさせるための何らかの精神的なサポートがあればよい。</li> </ul>
	<p>成果 4 の達成状況はどうか。 指標の現時点での結果はどうか。 成果 4：算数の教員用指導書及び普及研修用教材が開発される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各指標の達成状況については、報告書本文の指標結果表を参照。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
プロジェクト目標の達成見込み	プロジェクト目標は終了までに達成される見込みか。指標の現時点での結果はどうか。 プロジェクト目標：教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各指標の達成状況については、報告書本文の指標結果表を参照。</li> <li>・ 指標結果をみれば、現在の達成状況から判断すると、プロジェクト目標は終了までに達成される見込みであるが、このプロジェクト目標の指標は主に成果2・3の達成にしか連動していない指標であるため、この指標のみでプロジェクト目標の達成度を判断するのは不適當。成果4の達成は内容上、プロジェクト目標の指標となりにくい、成果1の達成に連動する指標は追加すべき。</li> </ul>

#### 実施プロセスの検証

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
活動の実施状況	教員養成体制強化に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 教員養成従事 C/P ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね計画どおりに実施されている。運営指導調査での提言を受けて、EC教科書の追加モジュールを改訂する活動が追加され、2010年5月から改訂作業を行っている。改訂作業にあたっては、WG2の現職教員研修で扱う内容との整合性を図っている。</li> </ul>
	現職教員研修に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。フェーズIでの研修実施方法（2段階によるカスケード方式）に比べ、フェーズIIでの研修実施方法（3段階によるカスケード方式）は効果的か。運営指導調査で指摘された課題は改	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 現職教員研修従事 C/P ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね計画どおりに実施されている。フェーズ1対象地域でのフォローアップ研修を1年次から4年次に実施することに変更。</li> <li>・ フェーズIIで実施されている3段階のカスケード方式は、方法自体は悪くなく、全国展開のためには効率的な方法。フェーズIより1段階増やすことによって質の低下が懸念されたが、トレーナーとして適切な人材が研修を担当すれば、質の低下は防げる。また、それぞれの段階で教える内容は同じになるように設計されているので、下段階に行くほど内容の理解が浅くなるということはないと思われる。研修の最終日の前日にCCA理解度テストを行い、最終日にテストで理解が浅いと思われるところを解説するなどして、理解度を高めるための工夫は行われている。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	善されているか。		
	自主研修に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね計画どおりに実施されている。フェーズ I 対象地域へのフォローアップ研修を 1 年次から 4 年次に実施することに変更。</li> <li>・ 運営指導調査での提言を受けて、モデル校を 2 校選定して、CCA 実践レベル 2~3 をめざした取り組みが追加された。</li> <li>・ TEO/ATEO による学校での CCA 実践状況のモニタリングが難しいとの指摘を受け、簡易型授業観察シートを作成し、チェックリストとして TEO/ATEO が簡単にチェックできるように改善した。</li> </ul>
	算数指導書開発に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 算数指導書開発従事 C/P ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部作業の遅れはあるものの、おおむね計画どおりに実施されている。</li> </ul>
プロジェクトのマネジメント体制	専門家の実施体制に問題はないか。各コンポーネントの連携はとれているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家同士で毎週末に団内会議を開き、お互いの作業の進捗状況の確認などを行っているが、各コンポーネントで独立してそれぞれの活動を実施しているため、コンポーネント間での頻繁な連携は取りづらい。</li> </ul>
	専門家とカウンターパート間のコミュニケーションに問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に大きな問題ではないが、算数指導書開発の WG は英語が不得手な C/P が多く、ややコミュニケーションが取りづらい。通訳を 2 名雇い、コミュニケーションを取っている。</li> <li>・ 遠隔地でのコミュニケーションが取りづらい。専門家が日本にいる際の C/P とのやり取りがしにくい。地方との連絡は、メールはほとんど無理で、電話か手紙（通達）となる。</li> </ul>
	プロジェクト全体のモニタリングは適切になされているか。進捗状況はどのように確認されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね適切になされている。プロジェクト全体の進捗状況は、事業進捗報告書や業務完了報告書を作成する際などに確認している。</li> <li>・ プロジェクト全体のマネジメントは、フェーズ I のときよりも向上している。</li> </ul>
	専門家と JICA 在外事務所・本部とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	ンに問題はないか。		
カウンターパートのプロジェクトへの関与	カウンターパートのプロジェクトに対する認識は高いか。また、プロジェクトへの参加度合いは高いか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (他のプロジェクトとの比較でいうと) 高い。フルタイムの C/P が多いため参加度は高く、長年一緒にやってきている C/P もいるため、今までの CCA に関する活動の経緯をよく分かっており、プロジェクトに対する理解度も高い。各 C/P はそれぞれが所属する WG で取り組むべき活動をよく把握しており、業務にも真面目に取り組んでいる。</li> </ul>
	教育省の適切な部署・人員がカウンターパートとして配置されているか。ほかにプロジェクトへの協力・連携が必要とされる機関・部署はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育省の高等教育局下にある Institute of Education : IOE (基礎教育も含めたカリキュラムを担当) の関与が必要。課長レベルと将来のカリキュラム改訂 (小学校と教員養成大学両方でのカリキュラム) を見据えた戦略的な取り組みをプロジェクト実施中にできるとより効果的。</li> </ul>
実施上の問題点	その他、プロジェクトの実施過程で生じている問題はありますか。あるとしたらその原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト事務所には、教育省からプロジェクト要員としてアサインされた C/P とプロジェクト自身で雇用している秘書・アドバイザーなどのスタッフがいるが、プロジェクトで雇用されているスタッフの TOR が分からないため、彼らにどこまで仕事を頼んでいいのかわからない。また、専門家がいなくても仕事を頼んでいいのかなどが分からない。また、プロジェクト雇用のスタッフは政府職員ではないため、オフィシャル・レターの書き方などが分からない。</li> <li>・ WG1 はフルタイムの C/P が比較的若く、パートタイムの C/P がベテランであるため、パートタイム C/P のサポートがないと心もとない面がある。また、C/P が指導対象となる EC 教官よりも年齢が若い場合があり、ベテランの EC 教官に対して指導するのがやりにくいという面がある。</li> <li>・ WG2 は C/P の欠員が続き、一人ひとりの負担が多く、サイトでのモニタリングが十分にできない。</li> <li>・ パートタイム C/P がもともとの仕事に忙しく、プロジェクトに十分な時間を割くことが難しい。パートタイムの C/P の方がフルタイムの C/P よりも経験豊富でベテランの人材であ</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
			<p>ることもあるため、パートタイム C/P の関与がもっと増えるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトで授業デモンストレーション用の DVD 教材を作成しているが、ビデオ撮影は C/P が行っているが編集は日本人専門家が行っており、編集の仕方が分からない。</li> <li>ミャンマー側から許可を得なければならない問題（ビザの取得、地方出張など）が多く、円滑な業務実施の妨げになっている。</li> <li>2009年にプロジェクトとは別の研修（英語・算数強化研修）が教育省により突発的に実施され、WG3 の C/P がその研修に駆り出されてプロジェクトの業務ができなくなった。また、プロジェクトの研修日程も変更しなければならなくなった。</li> </ul>

妥当性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
相手国の開発政策との整合性	プロジェクト開始以後、ミャンマーの教育政策に変更はないか（ミャンマーの教育政策において CCA の普及は支持されているか）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年長期計画</li> <li>EFA 国家行動計画</li> <li>DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育政策である「Thirty-Year Long Term Education Development Plan (2001-2030)」 「Education for All National Action Plan (2003-2015)」に変更はなく、2015年までの CCA の全国普及は政府により支持されている。</li> </ul>
日本の援助政策との整合性	プロジェクト開始以後、日本の対ミャンマー経済協力方針・JICA の対ミャンマー事業実施計画に変更はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対ミャンマー経済協力方針</li> <li>JICA 対ミャンマー事業実施計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の対ミャンマー経済協力方針・JICA の対ミャンマー事業実施計画に変更はなく、教育分野への支援は「民主化・経済構造改革に資する人材育成」の一環として実施されている。</li> </ul>
開発ニーズとの整合性	プロジェクトはターゲット・グループのニーズを満たしているか。 ターゲット・グループ：BERDC スタッフ、EC 教官、	<ul style="list-style-type: none"> <li>PM ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> <li>各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BERDC は CCA 普及のための専門組織であり、スタッフはプロジェクトにより CCA 普及におけるさまざまな支援を得ているため、彼らのニーズを十分に満たしている。</li> <li>EC 教官の多くは CCA を好意的に捉えており、彼らのニーズを満たしているといえる。</li> <li>TEO/ATEO、クラスターヘッド、小学校の校長にとって、CCA に対するニーズは個人によって異なる。CCA 導入に意欲的な個人もいるが、CCA の実践が彼らの業務軽減や昇進</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	パイロット・タウンシップの TEO/ATEO、クラスターヘッド、校長、小学校教員		<p>などの評価に直接は結びつかないため、全体的なニーズは弱いといえる。特に進学重視の学校は従来の暗記型を基本とした試験で高い点数を取ることを優先するため、CCA に対するニーズも弱くなるといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員のニーズも個人によって異なり、CCA を習得したいという意欲の高い教員のニーズは満たしているが、特に習得意欲をもたない教員のニーズは弱い。</li> </ul>
プロジェクトのアプローチ	CCA の普及はミャンマーの教育セクターの開発課題に対して効果を上げる戦略として適切か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育省の掲げるビジョンとは一致している。プロジェクトはそのビジョン達成に貢献している。</li> <li>・ 政府は教育における「参加型アプローチ」を推進していくことを重要戦略のひとつに掲げているため、プロジェクトはこのアプローチ推進に役立つ。</li> <li>・ 授業の質の向上に貢献している。以前は「教科書を読む」ことが授業の大部分を占めていたが、CCA 導入によりそのような授業が改善されることに役立っている。</li> </ul>
	プロジェクトで実施している CCA 普及のための 3 つのアプローチ (Pre-service teacher education, In-service CCA training, On-site training) は適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプローチ自体は適切。3 つを組み合わせることは JICA のプロジェクトのなかでも珍しいタイプであり、利にかなっている。ミャンマー政府に対する説明としてもメッセージ性がある。だが、1 つのプロジェクトで 3 つを同時に進めることは、カバーする範囲や業務量が多大になるため、プロジェクトベースで投入量や活動実施を考えると大変である。特に、CCA 実践レベルの質を高めつつ計画どおりに業務を進めることは困難だといえる。</li> <li>・ プロジェクトとして考えれば、成果 1 (教員養成大学強化)、成果 2 と成果 3 (現職教員研修と自主研究)、成果 4 (算数指導書開発) の各コンポーネントを別々のプロジェクトとして実施する方が PDM 上の論理構成としても業務実施の効率性のうえでも適切であるといえる。本プロジェクト自体が 1 つのプログラムのようになっている。</li> <li>・ プロジェクト実施期間のように短い期間で考えれば in-service の現職教員に対する研修が有効であるが、将来的には pre-service を中心に実施していくことが大事。</li> </ul>
ターゲット地域の選定	フェーズ II の対象地域である 40 タウンシップの選定は適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象タウンシップの数の決定・選定はミャンマー側が行った。地理的優位性や CFS と重複しないなど、現実的な選定であり、おおむね適切だといえる。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
日本の技術の比較優位性	CCAの普及において、日本は適切なノウハウを持っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本は CCA に関するいろいろな手法を持っている。ただ、日本のやり方をそのままミャンマーに当てはめることはできないため、ミャンマーの環境・背景に合わせて活用することが必要。</li> <li>・ 長年にわたる CCA に関する協力の実績があり、そのなかで培われた経験・ノウハウが使えるため、日本が実施することの意義はある。</li> </ul>
前提条件	プロジェクトの前提条件は満たされているか。 前提条件：ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。カウンターパートが予定どおり配置される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CCA 普及計画に変更は生じていない。</li> <li>・ プロジェクト開始当初、カウンターパートは予定どおり配置された（その後、欠員は生じているが、いるメンバーで対応している）。</li> </ul>

#### 有効性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
アウトプットの産出状況（達成度）	「実績の検証」の項を参照。		
プロジェクト目標の達成見込み	「実績の検証」の項を参照。		
アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献度	各成果のプロジェクト目標達成への貢献度はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各コンポーネントのプロジェクト目標に対する貢献度を示すのは難しい。成果 1（教員養成体制強化）と成果 4（算数指導書開発）は内容の性質上、プロ目達成への直接の貢献とはならないが、プロジェクトに必要な成果であり、PDM 上の論理構成の問題だけで、特に問題はないといえる。</li> <li>・ DVD などの視聴覚教材は CCA の理解に有効。ビデオによって CCA の実施方法が分かり</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結 果
大項目	小項目		
			<p>やすいものになったと好評。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師派遣による専門家の研修の評判が高く、ほとんどの C/P から実践的な内容であり、理解促進・業務遂行に役立ったとの回答があった。</li> </ul>
外部条件	<p>各成果からプロジェクト目標に至る外部条件は満たされているか。</p> <p>外部条件：ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。EC において十分な数の教官がプロジェクトに従事する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CCA 普及計画に変更は生じていない。</li> <li>プロジェクトの事前調査時に問題として指摘された EC 教官の欠員は、その後、大規模な増員が行われ、解決している。</li> </ul>
他の貢献要因	<p>プロジェクト以外に、各成果・プロジェクト目標の達成に貢献している要因はあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> <li>各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上述の教育省による全国区での英語・算数強化研修の実施に際し、プロジェクトの C/P が算数教材の作成に加わったため、その教材の中で CCA の要素を取り入れ、またプロジェクトの紹介も行ったため、広報に役立った。</li> </ul>
	<p>他ドナー・NGO によるプロジェクトとの相乗効果の例はあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>UNICEF の CFS 対象地域のうち 5 タウンシップにおいて CCA 研修を実施したところ、研修参加者の感触が良く、理解度も高かった。</li> </ul>
阻害要因	<p>各成果・プロジェクト目標の達成を阻害している要因はあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> <li>各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に北部地域のタウンシップでは各学校の場所が非常に離れているため、TEO/ATEO が学校のモニタリングを行うことが容易でない。</li> <li>小学校・EC 両方において、使われているカリキュラムと教科書は CCA 導入以前のままであるため、プロジェクトで作成している指導書や研修教材の内容と齟齬が生じている。</li> <li>生徒の成績評価が暗記中心型の試験によって行われており、プロジェクトの研修で CCA に沿った評価方法も紹介しているが、現在の制度では実施されていない。このため CCA の実践と試験結果とが直接結びつかず、特に進学重視の学校において、教師の CCA 実践</li> </ul>



評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
			<p>意欲を引き出すのに障害となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が CCA に沿った授業を実践することに対する正式な評価システムがない。</li> <li>・ 関係者の転勤・退職が多い（特に TEO）。</li> </ul>

効率性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
インプット の実施状況	「実績の検証」の項を参照。		
アウトプット の産出状況 (達成度)	「実績の検証」の項を参照。		
アウトプット からみた 投入の質・ 量・タイミン グ	専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に適切。プロジェクト開始当初、教育省手配によるビザの許可が下りなかったため、1年次に専門家の派遣が遅れたり M/M が減ったりした影響はあった。2年次には JICA がビザの手配を行い、3年次には再び教育省が手配を行っているが、滞在期間の許可はまちまち。</li> </ul>
	カウンターパートの人数、配置状況、能力はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に適切。上記の「実績の検証」の項のとおり、各 WG において欠員はあるが、いる要員で対応している。C/P の能力に関しては、教師経験が豊富で、教授法や教科内容等の造詣が深い C/P が多いが、運営・マネジメントに関してはあまり経験がなく、弱い部分がある。プロジェクトのマネジメントを行っているのは実質プロジェクト・マネジャー一人で、アシスタント・プロジェクト・マネジャーは個々の研修のアレンジなどサイト単位でのマネジメントは行っているが、プロジェクト全体のマネジメントは行っていない。</li> </ul>
	本邦研修の人数、研修内容、研修時期・期間はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切。本邦研修は参加者からも好評で、算数の授業案のヒントが得られ、指導書の作成に貢献している。追加で授業研究に関する課題別集団研修が行われ、この研修も参加者から好評。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	供与機材の種類、量、設置時期は適切か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切。事務所予算で追加の PC・プリンター、TEO がモニタリングに使うバイクなどが供与された。</li> </ul>
	プロジェクトの全体予算・ローカルコストは適性規模か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切。研修参加者への日当等が低く抑えられているため (UNICEF と比べてかなり安い)、プロジェクトのコスト・パフォーマンスは高い。</li> </ul>
	カウンターパートのコスト負担は適性規模か。不都合・問題がある場合、何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負担は少ないが、当初の計画どおりには支出されている。</li> </ul>
効率性を阻害した要因	プロジェクトの実施にあたって、円滑な業務遂行が阻害されている例はあるか。あるとすればその原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	⇒ 「4-5 実施プロセスにおける特記事項」の最後の項を参照。

### インパクト

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
上位目標の達成見込み	プロジェクト終了後、上位目標が達成される見込みはあるか。 上位目標：2015 年までに国全体の 90%の小学校に CCA が普及する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ DEPT ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CCA 全国普及の政策・計画自体に変更はないため、教育省が実際に計画どおりに進めていくかのオペレーションしだい。プロジェクト終了後に BERDC がなくなったとしても、EC 主導で研修を実施していくことは可能だが、EC 教官の質に差があるため、BERDC スタッフと同程度にできるかは疑問。全国展開の際には専用のマネジメント・ユニットが必要であり、BERDC がそれを担うべく、教育省の正式な部署となることが重要。</li> <li>・ 指導書・研修教材等は研修実施に不可欠であり、これらなしに研修だけ行うことは不可能。これらの印刷コスト (2~3 億?) の予算調達が達成のための絶対条件となる。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに、CCA 研修を実施するだけでは教員が CCA 授業を実践するまでには至らない。CCA 実践を促進するためのモニタリング・チェック機能の強化が必要となる。全国展開にあたっては、コストをなるべくかけない方法で実施状況をモニタリングするための措置を考える必要がある。</li> </ul>
その他のイ ンパクト	プロジェクトの実施により、ミャンマーの教育セクターにおける政策・制度に対して何か影響を及ぼしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEPT ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(プロジェクトによる影響だけではないが) 昔に比べてより多くの予算が教育セクターに使われるようになった。</li> </ul>
	プロジェクトの成果・目標以外に、計画時に予期していなかったプラスのインパクトが生じているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> <li>各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスタートレーナー研修で C/P が講師を務めることによって、C/P 自身の指導力・観察力が向上した。</li> <li>C/P が PC やビデオなどを使えるようになった。</li> <li>本邦研修先の広島大学から与えられた授業研究のビデオが研修参加者以外の C/P にも参考になり、好評を博している。</li> <li>ミャンマー政府により突発的に研修（英語・算数強化研修）が実施され、C/P がその研修に駆り出されてプロジェクトの業務ができなくなったという弊害はあったが、一方でそのアサインによってプロジェクトの業務にも役立つ面があった。</li> <li>2010年7月にプロジェクトが現地メディア（テレビ・新聞・雑誌）の取材を受け、テレビ等で報道・紹介された。以前は教育省によりメディア取材は一切禁止されていたが、対応が軟化した。</li> <li>DBE は年に1回、担当地域の各タウンシップを訪問するが、今までは学校視察は高校ばかりを訪問していたが、プロジェクトによって小学校も訪問するようになり、小学校への関心が高まるようになった。</li> <li>今まで DEPT と DBE はあまり交流がなく、ほとんどお互い一緒に仕事をする事がなかったが、フェーズⅡより DBE の関与が増え、協力して業務を実施することができるようになった。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	プロジェクトの実施により、計画時に予期していなかったマイナスのインパクトが生じていないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし。</li> </ul>

持続性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
政策・制度面での持続性	ミャンマーにおける CCA 普及に関する教育政策は、今後とも継続される見込みか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2011～2015 年の 5 カ年国家教育計画で CCA 全国展開が計画されている。</li> </ul>
	CCA の全国展開に向けての制度面での整備はなされているか。もしくは今後なされる予定か。全国展開に向けた具体的な計画はあるか (cf. 事前評価調査における「CCA 現職教員研修普及計画」)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、上記 5 カ年計画の下での 2012/13～2014/15 年度までの CCA 普及計画の予算案を作成中。ドラフトは既にできている。予算案では指導書 (理科・社会・総合学習の 3 教科、計 7 冊) 及び研修教材の印刷費用、研修実施費用 (参加者への日当・宿泊費も含む) 等のコストも計上しており、各種印刷物は材料の質を現在使われているものより下げてコストを抑えることにしている。予算の承認は省庁再編のあと、どのようなプロセスにより行われるのか不明のため、いつ承認されるのかはまだ分からない。</li> <li>・ プロジェクト終了後の研修実施は 1 年に 90 タウンシップずつ行っていく。UNICEF の CFS 対象タウンシップと重なるところは教育省と UNICEF で研修費用を負担する予定。</li> <li>・ 10 日間ほどの研修で小学校教員の態度などを変えていくのは難しいため、パフォーマンスの悪い教員には再訓練を行ったり、リフレッシュ・トレーニング (教育省が行っている不定期の教員研修) を行ったりするなど、M&amp;E やフォローアップにも力を入れていく。</li> </ul>
体制面での持続性	プロジェクト終了後、教育省の現体制が変更される可能性はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それほど大きくは変わらない。全体の人員数・予算・人件費などは変わらないが、DBE の現在の機能を徐々に state/region (division から変更) に移していき、state/region は今よりも予算が使いやすくなる。いくつかの部・課はネピドーに移し、中央に集中させる。今</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
			年4月から始まる新しい体制は5年間で徐々に変えていき、2015/16年度に完全に移行させる。
	プロジェクト終了後、CCA 全国展開に向けての必要人員は配置される見込みか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEPT ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記計画の下で必要人員は配置される見込み。EC も全 20 校が研修に加わる（懸念されていたコレスポネンシ・コースとの重複はない）。ただ、マスタートレーナーが EC 教官だけでは少ないので、state/region からマスタートレーナーを養成する予定。</li> <li>研修は、中央レベル、state/region レベル、タウンシップレベルの3段階で実施する。</li> </ul>
	BERDC は正式な機関として認可される見込みはあるか。BERDC の機能は強化される見込みか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の BERDC は DEPT 内の「Teacher Education Section」として新設する予定であり、スタッフはプロジェクト終了後も引き続き CCA 普及に従事する。オフィスはネピドーに移動する。BERDC スタッフの質・効率性を向上させるための再訓練もまだ必要と考えており、日本にその再訓練の支援を期待している。</li> <li>（専門家の意見として）部署が Teacher Education Section 1 つだと、pre-service と in-service の活動が混ざってごちゃごちゃするのではないかと。課の中で2つをきちんと分けた方がよい。</li> </ul>
	EC における教官の欠員状況は今後改善される見込みか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に欠員は補充されている。</li> </ul>
	EC の教科書改訂に際し、CCA は反映される見込みか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EC 教科書改訂は既にプロジェクトで改訂作業を行っている。</li> <li>現在のカリキュラムと成績評価方法に CCA を反映させるための改訂については、新体制後に検討するつもりであるが、実施は難しい。カリキュラム開発は高度なスキルを必要とするため、現在の教育省の人員・能力のみで独自に実施するのは難しい。</li> </ul>
	供与機材の維持管理体制に問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT・機材メンテナンス用の技術スタッフがいるとよい。</li> </ul>
技術面での持続性	カウンターパートはプロジェクト終了後に CCA を全国展開していくためのマネジメント能力を有しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家ヒアリング</li> <li>PM ヒアリング</li> <li>DBE ヒアリング</li> <li>各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトのマネジメントを行っているのは実質プロジェクト・マネジャー一人であり、PM 以外のほかの C/P は WG の仕事しかやっていないため、彼らにマネジメントを任せるのは難しい。BERDC が存在し続け、C/P が引き続き CCA の全国展開を担うのであれば、他の C/P のマネジメント能力も高める必要がある。</li> </ul>

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法	結果
大項目	小項目		
	CCA 実施における質の向上をめざした取り組みは行われているか。運営指導調査で指摘された内容は実践されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師のスキルとして 6 つのコンピテンシー及び CCA の実践レベル（レベル 1・2・3）を設け、モデル校においてレベル 2～3 をめざした取り組みを行い、外部にも示すようにしている。</li> </ul>
財務面での持続性	プロジェクト終了後、教育省は CCA を全国展開するための予算（研修の実施・教材の印刷等）を確保できるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DEPT ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材の印刷に関しては、教育省内にある印刷所を使えば低コストでできるかもしれない。</li> </ul>
今後の展開	今後、プロジェクトと UNICEF の CFS プロジェクトとの協力・連携の可能性はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNICEF ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNICEF は 2011～2015 年の「5-Year Country Program」において、現在実施している CFS やライフスキル等のプログラムを引き続き行っていか、新たな活動として教員養成大学への支援と教育セクターレビューの実施を計画している。両方とも詳細はまだ決定しておらず、教育省と調整中。教員養成大学への支援に際しては、本プロジェクトの活動から情報等を得たいとの回答があったが、CCA の全国普及に際しての UNICEF 側からの協力については、教育省から特にまだ打診はされていない模様。</li> </ul>
	そのほか、プロジェクトの持続性を確保するために必要なことはあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM ヒアリング</li> <li>・ DEPT ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の対象地域への普及においては Assistant Inspector of State/Division (AIS)、Assistant Supervisor (AS) (SEO/DEO 内の担当者) の関与はそれほど必要としないが、今後、全国展開を行っていく際に各 EC がすべてのタウンシップの TEO/ATEO とコンタクトを取っていくことは難しいため、間に入る AIS/AS の関与が必要となる。SVT には AIS/AS にも参加してもらっている。</li> <li>・ 少数民族の多い地域ではミャンマー語が通じないため、代替方法を考える必要がある (CCA プログラム自体を地元の文化に適応・カスタマイズさせる必要がある)。</li> <li>・ 政府が掲げる戦略を各学校に実際に適用していくための強いポリシー。</li> </ul>

### 3. 評価グリッド

#### 「ミャンマー連邦共和国児童中心型教育強化プロジェクトフェーズⅡ」中間レビュー調査 評価グリッド

(注) PM：プロジェクト・マネジャー、APM：アシスタント・プロジェクト・マネジャー

データ収集方法がヒアリングの場合はヒアリング対象者を明記。資料レビューの場合は資料のみ明記。

#### 実績の検証

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
インプットの実施状況	日本側からの投入（専門家派遣、研修員受入、機材供与、ローカルコスト負担）は計画どおりに行われているか。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
	ミャンマー側からの投入（カウンターパート配置、施設提供、ローカルコスト負担）は計画どおりに行われているか。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
アウトプットの産出状況（達成度）	成果1の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。 成果1：CCA全国普及のための教員養成体制が強化される。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
	成果2の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。 成果2：CCA全国普及のための現職教員研修体制が確立する。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
	成果3の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。 成果3：自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
	成果4の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。 成果4：算数の教員用指導書および普及研修用教材が開発される。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
プロジェクト目標の達成見込み	プロジェクト目標は終了までに達成される見込みか。指標の現時点での結果はどうか。 プロジェクト目標：教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書

#### 実施プロセスの検証

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
活動の実施状況	教員養成体制強化に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	・ 専門家ヒアリング ・ 教員養成従事C/Pヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
	現職教員研修に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。フェーズⅠでの研修実施方法（2段階によるカスケード方式）に比べ、フェーズⅡでの研修実施方法（3段階によるカスケード方式）は効果的か。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	・ 専門家ヒアリング ・ 現職教員研修従事C/Pヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
	自主研修に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>
	算数指導書開発に係る活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。運営指導調査で指摘された課題は改善されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ 算数指導書開発従事 C/P ヒアリング</li> <li>・ 事業進捗・業務完了報告書</li> </ul>
プロジェクトのマネジメント体制	専門家の実施体制に問題はないか。各コンポーネントの連携はとれているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>
	専門家とカウンターパート間のコミュニケーションに問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM/APMヒアリング</li> </ul>
	プロジェクト全体のモニタリングは適切になされているか。進捗状況はどのように確認されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM/APMヒアリング</li> </ul>
	専門家と JICA 在外事務所・本部とのコミュニケーションに問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> </ul>
カウンターパートのプロジェクトへの関与	カウンターパートのプロジェクトに対する認識は高いか。また、プロジェクトへの参加度合いは高いか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM/APMヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>
	教育省の適切な部署・人員がカウンターパートとして配置されているか。ほかにプロジェクトへの協力・連携が必要とされる機関・部署はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM/APMヒアリング</li> </ul>
実施上の問題点	その他、プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか。あるとしたらその原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家ヒアリング</li> <li>・ PM/APMヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント C/P ヒアリング</li> </ul>

#### 妥当性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
相手国の開発政策との整合性	プロジェクト開始以後、ミャンマーの教育政策に変更はないか（ミャンマーの教育政策において CCA の普及は支持されているか）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30 年長期計画</li> <li>・ EFA 国家行動計画</li> <li>・ DEPT ヒアリング</li> </ul>
日本の援助政策との整合性	プロジェクト開始以後、日本の対ミャンマー経済協力方針・JICA の対ミャンマー事業実施計画に変更はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対ミャンマー経済協力方針</li> <li>・ JICA 対ミャンマー事業実施計画</li> </ul>
開発ニーズとの整合性	プロジェクトはターゲット・グループのニーズを満たしているか。 ターゲット・グループ：BERDC スタッフ、EC 教官、パイロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PM/APMヒアリング</li> <li>・ DBE ヒアリング</li> <li>・ 各コンポーネント</li> </ul>



評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
	ット・タウンシップの TEO/ATEO、クラスターヘッド、校長、小学校教員	C/P ヒアリング
プロジェクトのアプローチ	CCA の普及はミャンマーの教育セクターの開発課題に対して効果を上げる戦略として適切か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング
	プロジェクトで実施している CCA 普及のための 3 つのアプローチ (Pre-service teacher education, In-service CCA training, On-site training) は適切であるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング
ターゲット地域の選定	フェーズ II の対象地域である 40 タウンシップの選定は適切であるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング
日本の技術の比較優位性	CCA の普及において、日本は適切なノウハウを持っているか。	・ 専門家ヒアリング
前提条件	プロジェクトの前提条件は満たされているか。 前提条件：ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。カウンターパートが予定どおり配置される。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書

#### 有効性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
アウトプットの産出状況 (達成度)	「実績の検証」の項を参照。	
プロジェクト目標の達成見込み	「実績の検証」の項を参照。	
アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献度	各成果のプロジェクト目標達成への貢献度はどうか。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
外部条件	各成果からプロジェクト目標に至る外部条件は満たされているか。 外部条件：ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。EC において十分な数の教官がプロジェクトに従事する。	・ 専門家ヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
他の貢献要因	プロジェクト以外に、各成果・プロジェクト目標の達成に貢献している要因はあるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング ・ 各コンポーネント C/P ヒアリング
	他ドナー・NGO によるプロジェクトとの相乗効果の例はあるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング
阻害要因	各成果・プロジェクト目標の達成を阻害している要因はあるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング ・ 各コンポーネント C/P ヒアリング

効率性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
インプットの実施状況	「実績の検証」の項を参照。	
アウトプットの産出状況（達成度）	「実績の検証」の項を参照。	
アウトプットから見た投入の質・量・タイミング	専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング
	カウンターパートの人数、配置状況、能力はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング
	本邦研修の人数、研修内容、研修時期・期間はそれぞれ適切か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング
	供与機材の種類、量、設置時期は適切か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング
	プロジェクトの全体予算・ローカルコストは適性規模か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング
	カウンターパートのコスト負担は適性規模か。不都合・問題がある場合、何か。	・ 専門家ヒアリング
効率性を阻害した要因	プロジェクトの実施にあたって、円滑な業務遂行が阻害されている例はあるか。あるとすればその原因は何か。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング ・ DBEヒアリング ・ 各コンポーネント C/Pヒアリング

インパクト

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
上位目標の達成見込み	プロジェクト終了後、上位目標が達成される見込みはあるか。上位目標：2015年までに国全体の90%の小学校にCCAが普及する。	・ 専門家ヒアリング ・ DEPTヒアリング ・ PM/APMヒアリング ・ 事業進捗・業務完了報告書
その他のインパクト	プロジェクトの実施により、ミャンマーの教育セクターにおける政策・制度に対して何か影響を及ぼしているか。	・ DEPTヒアリング ・ DBEヒアリング
	プロジェクトの成果・目標以外に、計画時に予期していなかったプラスのインパクトが生じているか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング ・ DBEヒアリング ・ 各コンポーネント C/Pヒアリング
	プロジェクトの実施により、計画時に予期していなかったマイナスのインパクトが生じていないか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APMヒアリング ・ DBEヒアリング ・ 各コンポーネント C/Pヒアリング

持続性

評価設問		必要なデータ/ データ収集方法
大項目	小項目	
政策・制度面での持続性	ミャンマーにおける CCA 普及に関する教育政策は、今後も継続される見込みか。	・ DEPT ヒアリング
	CCA の全国展開に向けての制度面での整備はなされているか。もしくは今後なされる予定か。全国展開に向けた具体的な計画はあるか (cf. 事前評価調査における「CCA 現職教員研修普及計画」)。	・ DEPT ヒアリング
体制面での持続性	プロジェクト終了後、教育省の現体制が変更される可能性はあるか。	・ DEPT ヒアリング
	プロジェクト終了後、CCA 全国展開に向けての必要人員は配置される見込みか。	・ DEPT ヒアリング ・ DBE ヒアリング
	BERDC は正式な機関として認可される見込みはあるか。BERDC の機能は強化される見込みか。	・ DEPT ヒアリング
	EC における教官の欠員状況は今後改善される見込みか。	・ DEPT ヒアリング
	EC の教科書改訂に際し、CCA は反映される見込みか。	・ DEPT ヒアリング
	供与機材の維持管理体制に問題はないか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング
技術面での持続性	カウンターパートはプロジェクト終了後に CCA を全国展開していくためのマネジメント能力を有しているか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング ・ 各コンポーネント C/P ヒアリング
	CCA 実施における質の向上をめざした取り組みは行われているか。運営指導調査で指摘された内容は実践されているか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DBE ヒアリング ・ 各コンポーネント C/P ヒアリング
財務面での持続性	プロジェクト終了後、教育省は CCA を全国展開するための予算 (研修の実施・教材の印刷等) を確保できるか。	・ DEPT ヒアリング
今後の展開	今後、プロジェクトと UNICEF の CFS プロジェクトとの協力・連携の可能性はあるか。	・ UNICEF ヒアリング
	その他、プロジェクトの持続性を確保するために必要なことはあるか。	・ 専門家ヒアリング ・ PM/APM ヒアリング ・ DEPT ヒアリング ・ DBE ヒアリング ・ 各コンポーネント C/P ヒアリング

## PDM の整合性についてのチェック

- ・ PDM における活動項目以外に必要な活動が生じているか。もしくは現状に合わない不必要な活動項目はあるか。
- ・ 成果・プロジェクト目標・上位目標それぞれの内容に問題はないか。
- ・ 成果・プロジェクト目標・上位目標それぞれの達成度を計る指標は適切か。
- ・ 成果・プロジェクト目標・上位目標の論理構成に問題はないか。
- ・ 外部条件に変更はないか。
- ・ プロジェクトの実施に際し、PDM は有効か。

#### 4. 質問票

### 質問票

#### (プロジェクト専門家)

#### プロジェクトの実績に関する質問

1. 日本側からの投入（専門家派遣、研修員受入、機材供与、ローカルコスト負担）は計画通りに行われていますか。
2. ミャンマー側からの投入（カウンターパート配置、施設提供、ローカルコスト負担）は計画通りに行われていますか。
3. 成果1（CCA 全国普及のための教員養成体制が強化される）の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。
4. 成果2（CCA 全国普及のための現職教員研修体制が確立する）の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。
5. 成果3（自主研修活動（クラスターミーティング、学校ミーティング）を通して授業改善を継続していくための仕組みが確立する）の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。
6. 成果4（算数の教員用指導書および普及研修用教材が開発される）の達成状況はどうか。指標の現時点での結果はどうか。
7. プロジェクト目標（教育省がCCAを全国規模で普及していくための仕組みが確立する）は終了までに達成される見込みですか。指標の現時点での結果はどうか。

#### プロジェクトの実施プロセスに関する質問

1. 教員養成体制強化に係る活動はそれぞれ計画通りに実施されていますか。2009年9月の運営指導調査で指摘された課題は改善されていますか。
2. 現職教員研修に係る活動はそれぞれ計画通りに実施されていますか。フェーズ1での研修実施方法（2段階によるカスケード方式）に比べ、フェーズ2での研修実施方法（3段階によるカスケード方式）は効果的だと思いますか。運営指導調査で指摘された課題は改善されていますか。
3. 自主研修に係る活動はそれぞれ計画通りに実施されていますか。運営指導調査で指摘された課題は改善されていますか。
4. 算数指導書開発に係る活動はそれぞれ計画通りに実施されていますか。運営指導調査で指摘された課題は改善されていますか。
5. 専門家の実施体制に問題はありますか。各コンポーネント間の連携はとれていますか。

6. 専門家とカウンターパート間のコミュニケーションに問題はありませんか。
7. プロジェクト全体のモニタリングは適切になされていると思いますか。プロジェクトの進捗状況はどのように確認していますか。
8. 専門家と JICA 在外事務所・本部とのコミュニケーションに問題はありませんか。
9. カウンターパートのプロジェクトに対する認識・理解度・オーナーシップは高いと思いますか。また、プロジェクトへの参加度合いはどうか。
10. 教育省の適切な部署・人員がカウンターパートとして配置されていますか。他にプロジェクトへの協力・連携が必要とされる機関・部署はありますか。
11. その他、プロジェクトの実施過程で生じている問題はありますか。あるとしたらその原因は何ですか。

### 評価 5 項目に関する質問

#### 妥当性

1. CCA の普及はミャンマーの教育セクターの開発課題に対して効果をあげる戦略として適切であると思いますか。
2. プロジェクトで実施している CCA 普及のための 3 つのアプローチ (Pre-service teacher education, In-service CCA training, On-site training) は適切・有効であると思いますか。
3. フェーズ 2 の対象地域である 40 タウンシップの選定は適切であると思いますか。
4. CCA の普及において、日本は適切なノウハウを持っていると思いますか。
5. プロジェクトの前提条件は満たされていますか (前提条件: ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。カウンターパートが予定どおり配置される)。

#### 有効性

1. 各成果のプロジェクト目標達成への貢献度について、どう思われますか。各成果がそれぞれ均等にプロジェクト目標達成に貢献していると思いますか。
2. 各成果からプロジェクト目標に至る外部条件は満たされていますか (外部条件: ミャンマー政府の CCA 普及計画に変更が生じない。EC において十分な数の教官がプロジェクトに従事する)。
3. プロジェクト以外に、各成果・プロジェクト目標の達成に貢献している要因は何かありますか。
4. 他ドナー・NGO によるプロジェクトとの相乗効果の例はありますか。
5. 各成果・プロジェクト目標の達成を阻害している要因は何かありますか。

### 効率性

1. 専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期はそれぞれ適切だと思いますか。
2. カウンターパートの人数、配置状況、能力はそれぞれ適切だと思いますか。
3. 本邦研修の人数、研修内容、研修時期・期間はそれぞれ適切だと思いますか。
4. 供与機材の種類、量、設置時期はそれぞれ適切だと思いますか。
5. プロジェクトの全体予算・ローカルコストは適性規模だと思いますか。
6. ミャンマー側のコスト負担は適性規模だと思いますか。
7. プロジェクトの実施にあたって、円滑な業務遂行が阻害されている例はありますか。  
あるとすればその原因は何ですか。

### インパクト

1. プロジェクト終了後、上位目標（2015年までに国全体の90%の小学校にCCAが普及する）が達成される見込みはありますか。
2. プロジェクトの成果・目標以外に、計画時に予期していなかったプラスのインパクトが何か生じていますか。
3. プロジェクトの実施により、計画時に予期していなかったマイナスのインパクトが何か生じていますか。

### 持続性

1. カウンターパートの供与機材の維持管理体制に問題はありませんか。
2. カウンターパートは、プロジェクト終了後にCCAを（ドナーのサポートなしに独自に）全国展開していくためのマネジメント・管理能力を有していると思いますか。
3. CCA実施における質の向上を目指した取り組みは行われていますか（特に、運営指導調査で指摘された内容は実践されていますか）。
4. その他、プロジェクトの持続性を確保するために必要なことはありますか。

以上

## Interview Questions

1. Do you think that there are no problems in the communication between you and Japanese experts?
2. Do you think that the monitoring system of the project is appropriately managed? How do you identify the project progress?
3. Do you think that the degree of participation of your counterparts to the project has been good? Has the recognition of the project by target groups been good? (Target groups: Staffs of BERDC, Teacher educator of 20 ECs, TEO/ATEO, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships)
4. Do you think that the appropriate post/personnel in MOE and EC are allocated as the counterparts? Is there any organization/department necessary to cooperate in implementing the project?
5. Do you have any problems during the process of implementing the project? If any, what is the cause?
6. Do you think that the project meet the target groups' needs?
7. Do you think that the project is suitable as a strategy for producing an effect to the development issues of the education sector in Myanmar?
8. Do you think that the three approaches (Pre-service teacher education, In-service teacher training and On-site training) for CCA dissemination implemented by the project are appropriate/effective?
9. Do you think that the selection of pilot sites of phase 2 (40 townships) is appropriate?
10. Are there any contributing factors for achieving the project outputs and purpose except the project implementation?
11. Are there any synergy effects between the project and other donors and NGOs' projects?
12. Are there any negative factors that inhibit the achievement of project outputs and purpose?
13. Do you think that the number of Japanese experts dispatched, their fields of expertise, and timing and period of dispatch are appropriate?
14. Do you think that the number, allocation and skills of your counterparts are appropriate?
15. Do you think that the number of trainees, their fields, training contents, training period and timing of the counterpart training in Japan are appropriate?
16. Do you think that the kinds and quantity of equipment provided are appropriate?



17. Do you think that there is any prospect for achieving the following project overall goal after the project? (Overall goal: CCA will be disseminated to 90% of primary schools in Myanmar by 2015)
18. Are there any positive impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been produced by the project?
19. Are there any negative impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been brought about by the project?
20. Do you think that the equipment provided will be managed and maintained appropriately after the project?
21. Do you think that your counterparts have enough management and administrative capacity to implement CCA dissemination nationwide after the project?
22. Have you made any efforts to improve the quality of CCA implementation in the project? If so, what kind of efforts?
23. What do you think is the necessary thing for the sustainability of the project other than the above things?

End//

## Interview Questions

1. After the project started, do you have no changes in Myanmar's national educational policy? (Is the concept of CCA still supported by Myanmar's educational policy?)
2. Do you think that there is any prospect for achieving the following project overall goal after the project? (Overall goal: CCA will be disseminated to 90% of primary schools in Myanmar by 2015)
3. Are there any project impacts on policies and systems related to the education sector in Myanmar?
4. Do you think that the education policy on CCA dissemination in Myanmar will be carried on in future?
5. Have you made any practical development for the management and administrative system on CCA dissemination nationwide? Or are you going to make in near future? Do you have any practical plan for the dissemination?
6. Do you think that there is a possibility of changing the present system of MOE after the project?
7. Do you have any plan for allocating the necessary personnel for CCA dissemination nationwide after the project?
8. Do you think that BERDC will be approved as the formal department of MOE in future? Will the function of BERDC be strengthened in future?
9. Do you think that the present vacant positions of EC teachers will be filled in future?
10. Do you have any plan for introducing the concept of CCA to the new textbooks used in EC in revising them?
11. Do you think that MOE will be able to allocate the budget for CCA dissemination nationwide (implementing In-service teacher training and printing materials) after the project?
12. What do you think is the necessary thing for the sustainability of the project other than the above things?

End//

## Interview Questions

1. In terms of the project activities on Output 3 (see below), do you think that the activities have been implemented as planned? If not, what is not implemented? Have you made any modification or improvement in the activities after the first mid-term review in September 2009?  
Output 3: The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.
2. Do you think that the degree of participation of your counterparts to the project has been good? Has the recognition of the project by target groups been good? (Target groups: Staffs of BERDC, Teacher educator of 20 ECs, TEO/ATEO, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships)
3. Do you have any problems during the process of implementing the project? If any, what is the cause?
4. Do you think that the project meet the target groups' needs?
5. Do you think that the project is suitable as a strategy for producing an effect to the development issues of the education sector in Myanmar?
6. Do you think that the three approaches (Pre-service teacher education, In-service teacher training and On-site training) for CCA dissemination implemented by the project are appropriate/effective?
7. Are there any contributing factors for achieving the project outputs and purpose except the project implementation?
8. Are there any negative factors that inhibit the achievement of project outputs and purpose?
9. Are there any project impacts on policies and systems related to the education sector in Myanmar?
10. Are there any positive impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been produced by the project?
11. Are there any negative impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been brought about by the project?
12. Do you have any plan for allocating the necessary personnel for CCA dissemination nationwide after the project?
13. Do you think that your counterparts have enough management and administrative capacity to implement CCA dissemination nationwide after the project?

14. Have you made any efforts to improve the quality of CCA implementation in the project?  
If so, what kind of efforts?
15. What do you think is the necessary thing for the sustainability of the project other than the above things?

End//

## Interview Questions

1. In terms of the project activities on each Output (see below) in which you are engaged, do you think that the activities have been implemented as planned? If not, what is not implemented? Have you made any modification or improvement in the activities after the first mid-term review in September 2009?

Output 1: The system of Pre-service teacher education for nationwide CCA dissemination is strengthened.

Output 2: The system of In-service teacher training for nationwide CCA dissemination is established.

Output 3: The system of On-site training for teaching improvement (cluster meeting and school meeting) is established.

Output 4: Mathematics teachers' guide and training materials for dissemination are developed.

2. Do you think that your degree of participation to the project has been good?
3. Do you have any problems during the process of implementing the project activities? If any, what is the cause?
4. Do you think that the project meet the target groups' needs? (Target groups: Staffs of BERDC, Teacher educator of 20 ECs, TEO/ATEO, Cluster-Heads, Head-Teachers and Primary school teachers in target townships)
5. Are there any contributing factors for achieving the project outputs and purpose except the project implementation?
6. Are there any negative factors that inhibit the achievement of project outputs and purpose?
7. Are there any positive impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been produced by the project?
8. Are there any negative impacts that are not planned at the time of planning the project but that have been brought about by the project?
9. Do you think that you have enough management and administrative capacity to implement CCA dissemination nationwide after the project?
10. Have you made any efforts to improve the quality of CCA implementation in the project? If so, what kind of efforts?

